明治四十四年十二月五日發行（毎月一回一日發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

新女界

第参巻　第拾貳號

東京　新人社　發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第參卷拾貳號目次

▲社説
◉心の準備……安井哲子

▲教壇
◉基督教の眞髓……海老名彈正

▲想苑
◉世界最大の美……宮川經輝
◉男女問題の意義……安部清藏
◉米國家庭の特質……籾倉小羊

▲文苑
◉のぶ子の父樣……紫嵐
◉子供の歌園……赤星

▲雜俎
◉珍しき改悔……せいさん
◉病床日記より……鹿子木つや

▲家庭
◉子女教育に於ける母の務め……海老名みや
◉家庭衛生大意……小山憲佐

▲隨感
◉夫婦の情味◉最高の奉仕◉わたくしと云ふ字其他
△時事其折々△林町より

毛髮の惡臭は交際上の不覺紳士も奥さんも孃さんも香りよき千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價
七十錢
卅五錢
廿五錢
十七錢

スワン石鹼

純白で湯水に浮き價安くて品の良き英國製スワン石鹼は全國の藥舖小間物店化粧品にあり

英國製
スワン石鹼
日本一手販賣

東京馬喰町四丁目
山岸三之助
電話浪花 三七九三
振替口座 二〇五〇〇

最新教育に關する二大名著

▲現時の婦人に對する大警告。女子教育に對する絶好指針

京都大學教授 文學博士 谷本富先生著

女子教育

△谷本博士は我國教育界の泰斗也先生多年女子教育研究に心を寄せられ東西を比較し古今を究め遂に本書を著はす妻とし母とし主婦として必要なる事柄をば極めて明快に説述せらる論旨清新にして穩健敍述周匝意味徹底教育家は勿論男女共通の寶典

△定價壹圓
△郵税拾貳錢
△上製菊版
三百六十頁

▲現代人の男女人格を養成すべき根本問題悉く解決せらる

女子大學校長 成瀨仁藏先生新著

進歩と教育

◎如何にして活人物を養成すべきか之れ實に教育の大問題也時代の進歩に伴ひ之に相應する教育に付き明快なる斷案を與へられたるは本書也所論嶄新にして奇激ならず而も他に見るべからざる一大特色を有す世の教育家及び經世家は勿論萬人の熟讀すべき良書也

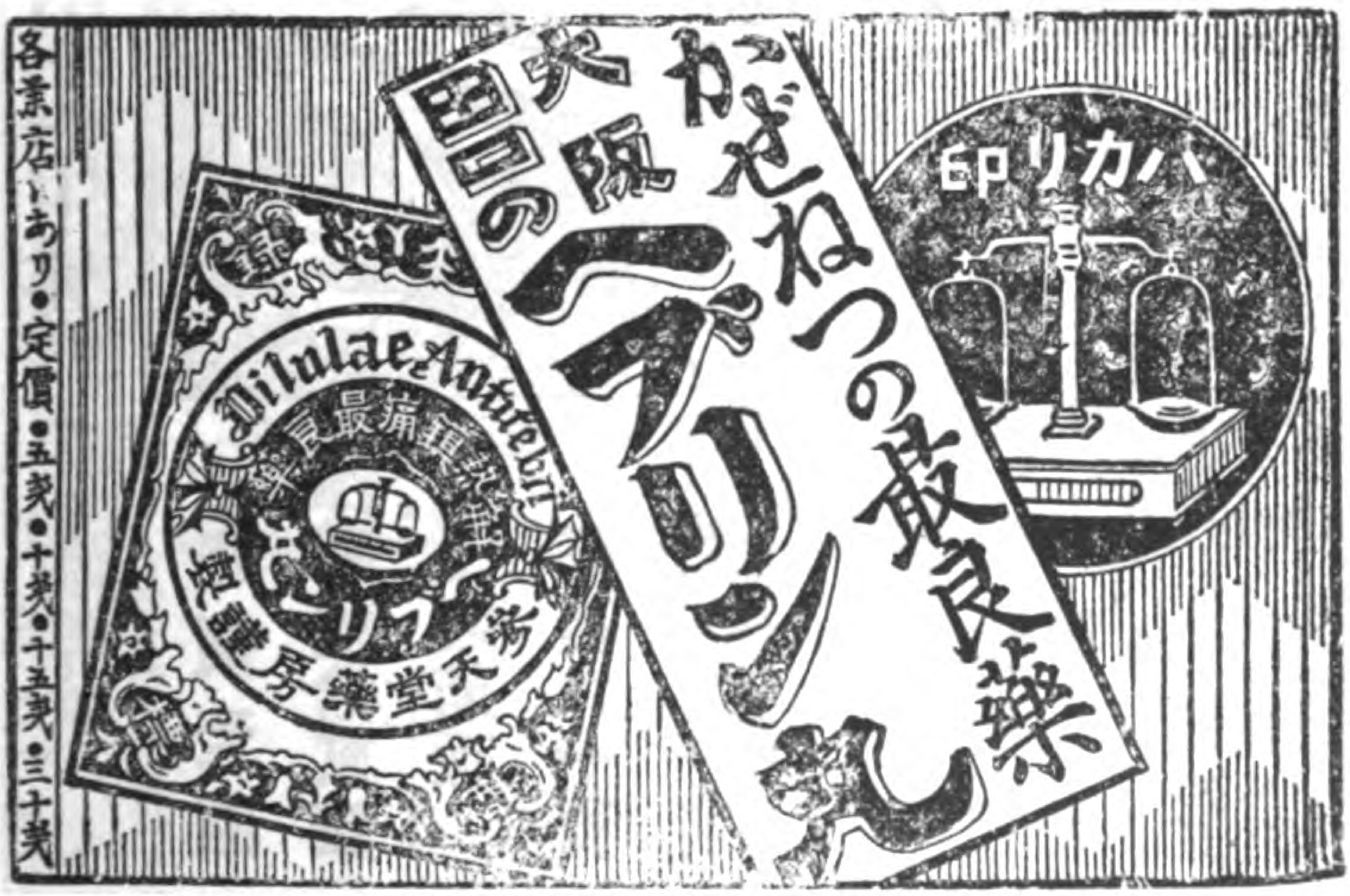
△定價七十錢
△郵税八錢
△菊版上製
△金文字入美本

發行所 東京京橋區紺屋町 實業之日本社
振替貯金口座參貳六番 賣捌全國各地書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり



基督教世界主筆 加藤直士著

四六判二百六十餘頁 挿圖寫眞拾壹葉

定價五十錢 郵税六錢

小林富次郎傳

小林富次郎氏は、自己の爲したる事を他に語らざる人なりき。然し乍ら、其の晩年、歐米漫遊の際には、汽船の甲板上にて、隨行者たりし本書の著者に徐ろに、其の經歷を語りしといふ。加藤氏は其談話を骨子とし、遺族よりの材料により、精細に事實を調査して、本書を成せり。

神學博士高木壬太郎著

四六貳倍判 厚サ二寸五分

基督教大辭典

本年中特價ニテ販賣 拾二圓 送料三十二錢

本辭典は即ち基督教百科全書にして基督教に關する、一切の事項を掲載し、之と間接關係ある、文字、哲學、政治、法律、郷土、歷史、美術に關する事項も網羅したれば、壹卷にして西歐精神界の消息を探るを得べく、數十卷の專門書籍を、貯ふるの用を節すべし。

新案複式線

吾家之歷史

四六版

特製 壹圓二十錢 上製 五十錢 送料八錢

特製折革聖書形金線 上製クロス

弊社新案の複式線といふは、點線と罫線とにより、字を大きくも、小さくも勝手に書け、記事多き人にも 少なき人にも、過不及なきやうにしたる最新工夫なり。日記はこれ以上進歩する事能はず。

小形

吾家之歷史

特製 壹圓 上製 四十錢 送料八錢

菊半截

特製折革聖書形金線上製クロス

これは、二十餘年間、眞面目なる日記使用家の愛用に堪へたるものにして、二十餘年後の今日も猶名聲を増しつゝあり。欄を往來、爲したる事、得たる社會の思想社會の出來事、雜事の五に分ち、月々挿入する格言は清新にして、キリスト信徒の座右の銘とするに足る。

發兌 東京京橋尾張町 振替東京五五三 警醒社書店 本郷春木町 警醒社支店 神戸元町通 福音舍支店

クリスマス用書籍

子供の權利 田村直臣著 五十錢 郵六錢

クリスマス物語 新島大直 四十錢 郵六錢

忘れな草 紫蘭山人譯 四十錢 郵六錢

未だ見ぬ親 五來素川譯 六十五錢 郵八錢

犬の話 大宮季貞編 二十錢 郵四錢

柊山のクリスマス 毛利薫譯 二十錢 郵四錢

傳記物語 篠田昌五 武傑譯 二十錢 郵四錢

婦人の心得 松村介石著 上製三十錢 並二十錢 郵四錢

日々の教（掛圖） 福音舎編 三十錢 郵八錢

聖戰 小說 松本雲舟譯 十二月中旬發兌

大路歴程の作者バンヤンが三大傑作の一にして、何處に往く以來、譯筆既に定評ある、雲舟氏の筆になれるもの、本年宗教出版界、最後の光彩たる事を疑はず。

美裝定價一圓二十錢 郵稅十二錢

各國語聖書、讚美歌。クリスマスカアド

同業者發兌のクリスマス書籍は凡て備置候間御來店被下度地方御注文も迅速に御發送可仕候

東京銀座 **警醒社書店** 振替五五三

東京本郷 **警醒社支店** 中央會堂隣

第參卷第拾貳號

心の準備

安井哲

「クリスマス」は近づき、歳暮は近づき、新年も亦近づきました。子供も成人も何となく心忙しい様でありますが、併其中に又一種の樂しみがあります。凡て準備には或目的と、之れに達しようとする計畫と、又其目的を實現しようとする努力と希望とを有する者で、實に愉快な時期であります。併しながら近頃のやうに誰も彼も忙しい生活を致して居りますと、物事を準備する時間がなく、何事でも其瞬間に迫つてから大騷ぎで、間に合はせや責塞ぎに仕事を致す樣になりますので、獨其結果が惡いのみでなく仕事に眞の快樂が伴ひません。私の知人に優等の學生がありました。曾て地理の試驗を受けます場合に充分の準備が出來ず、止を得ず其前夜殆徹夜して復習を致しました所が、其翌日頭がぼんやりして、彿

蘭西の首府がパリである事すらも忘れてしまつたとて、大笑ひを致した事がありました。私共學生時代には之れに類する經驗が多いので、何か論文でも書かせられたり、又は試驗の準備でも致します時に、若準備の時間が充分にありますと、其結果よりも寧準備中が面白く、種々の參考書を讀んで立派な思想に感激したり、美くしい文章に圖らず心を奪はれたりする所に、云ふに云はれぬ味があつて試驗の成績などは殆ど忘れてしまふのであります。而もかく愉快に材料を集めた結果は、充分に研究を積んだ興味ある論文となつて表はれたり、又は自身收得した智識を一つ試みやうと自ら進んで受くる試驗となるのであります。

此心狀は今日の生活上にも能く當てはまるので、病氣や困難や、其他不時の出來事を豫想して、平生から注意もし又覺悟も致して居りますと、是等を未發に防ぐ事も出來れば、又從容として之れに當る事も出來ます。例ば年の若い方々は、御兩親の許に何

の不足もない幸福な生活をなされて、世の中は皆此の如き者であると想像し、之れに劣らぬ樂しい新家庭を作り出したいと希望して居られますが、さて新生涯に入つて見ると、人事は思ふやうにのみ行かず面倒な親族の關係があつたり、夫の機嫌が取りにくかつたり、種々の困難が起つて來ますので、茲に初めて此世を悲觀し初めるのであります。併し人間は不完全な者で、病もあれば缺點もあり、悲しい事も時に經驗せねばならぬのが普通であると致しますれば、初めから不足の多いのが生活の常態であると豫想して、其準備さへ致して居れば平然と之れに當る事が出來ませう。吾々はどうも眼前に利益にのみ注意して、それが將來如何なる結果を來たすかといふ事を充分豫想せぬ事が多くあります。之れは時には思慮の足らぬより起る事もありませう。又智識が淺薄で先見の明を欠くためでもありませうが、今少し眞面目な考を有ちさへすれば、幾分か此失敗を逃るる事が出來ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

概して吾々婦人は現在に生活して、將來に思を廻らす事が少くあります。故に物事に眞の準備をするといふ事は不得手で、唯其當時のみ滿足に行けば、後は又どうにかなるであらうと考へ易いのであります。其結果として、獨自分の不利益となるのみでなく、他人に迷惑をかける事が屢あります。私の實驗に依りますと、年の若い時には何事でも熱心になる傾がある者で、一つ思ひ込むと是非其れをやつて見たくなり、前後の關係等をも深く考へず、之れがために終に失敗する事が少くありません。此熱心は一方には青年の實に偉い所でありますが、又一方には失敗に陷り易い所であります。併た互にかくして經驗を積み、自ら學ぶのでありますから、決して此意氣込みを挫く必要はありません。

準備中の困難には、希望や努力や快感が伴ひますが、不準備の結果陷つた過には、失望と不快の感とが伴ふ者で、元氣恢復には非常な力が要ります。其故に心力勞力等の經濟から申します時には、何事にも初めから眞面目な目的を立て、其れに向つて緩々と準備する方が得策であります。手近な例で申しますならば、歳暮や新年に、華美な裝をして他人を訪問したり、又は身分不相當に贅澤な御馳走でもして來客を歡待さうと工夫するよりも、將來吾子供を立派に教育する爲とか、又は臨時の費用に備ふる爲に貯蓄でもして、永遠に心寛かな月日を送らうと考へる方が遙かに樂しみでありませう。私は曾て出產した婦人から其費用を貸してと依賴されて、心から泣いた事がありますが、併れと同時に何故此方が今日ある事を知つて、平生質素な生活をせられなかつたらうかといふ事に思ひ及びました時には、寧平素の不眞面目な心懸を憐まずには居れませんでした。

貧に迫つた苦しみ、罪を犯した悲しみ等は、如何に止を得ぬ事情があつたにせよ、人生に對する眞面目な考の欠乏から生じた結果としての非難は免れぬでありませう。力のあらん限り誠實に働いても尚貧いのは實に致し方がないので、其中には一種の滿足

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と絶念とがあるのみならず、か丶る心懸の人は何等かの仕事を求め得て、大抵は極貧に陥らぬ者であります。然るに平生外見を装ふ人々に限り、不意の出來事が起る時には如何とも處置が出來ず、而も尙耻づべからざる事を耻ぢて、他人の前を飾らんと致します故に、終には道ならぬ事をも敢てする樣になるのであります。其結果は日陰の人となつて、自ら求めて此世界を心狹く住まねばならぬこととなるのであります。此に至つては、平生心に用意のある人が强いので、平和の時に不慮の出來事を豫想し、何時で之もれに當る準備がありますから、如何なる事に出遇つても妄りに心を惱ます事はありません。時に苦痛を實驗致しましても、其中に一種の敎訓を見出して、直に吾生活を「より良き」方に向けようと力めますので、忽ち希望の光が現はれて來るのであります。

要するに、子供でも成人でも、其生活相應に一の眞面目な目的を有ち、之れに向つて遙に怠らず進まんとする準備を爲す事は、心に希望と努力と快樂とを保つのに最必要な事であります。而してか丶る狀態にある心は眼前の誘惑に打勝つ力を生ずる者で、不用意の生活から起る幾多の失敗と悔悟とを豫防し地味な樂しい心を有つて、何事にも從ひ得るのみでなく常に元氣を維持する事が出來るのであります。忽ち望んで忽ち得、又忽ちに之れを失ふ樣な生活狀態にある者には、決して恒の心がありません。從つて勇氣もなければ、努力もなく、忍耐もなければ、眞の快樂も味ふ事が出來ぬといふ事になるのであります。勿論吾々は時々意外の出來事に逢つて心を醒す必要はありますけれども、其都度進退谷まるやうな有樣に陥るのは、平素心の準備が足らぬ爲めであります。瞬間の彌縫策や、一時免れの工夫等は永遠の幸福や發展を得る途ではありません。故に最初から價のある目的を定めて、之れに準備する事は必要でありますけれども、一度踏み違へた場合には、根本的正しい處に目的を置き換へて、新に準備をなすより外に致し方がないのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

教壇

基督教の眞髄

海老名彈正

一

基督教は人々の持てる人格を發揮するに最も力あるものである。何となれば基督教は人格の宗教で、人格を基としてをるからである。人格と云ふ言葉は二十年ばかり前から出來たやうに思ふ。それさへ餘り深い意味でなく言ひ表はされてをつた。所が年を經るに從つて段々意味ありげになつて、今日では人格なる語は何人も口にするやうになつた。然し其眞意義に至りては、之を解するものは少ない。人格は人の形であると思つてをるものさへあつて、品格と解するのは先づ進んだ方である。

基督教に於て一つ大に心付かねばならぬことは、世界と自分とは違ふと云ふことである。兎角宗教や哲學では自分と云ふものを世界と同じ様に見るのであるが、基督教では此の世界と自分とは大に違ふと云ふことを明確にするものである。何故なれば基督教では新羅萬象を其まゝに神とは思はぬ。神は世界以上のもの、世界は受造物で、即ち神によりて造られたものとしてある。茲が他の宗教と趣きを異にするところで、佛教の草木國土悉皆成佛と云ふ所などとは大に違ふのである。故に自分と神とは非常に違

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ。又此の身體は自分でない、自分の身體といふ。身體は盛衰榮枯するものである、之れと自分とは違ふ。又慾情と自分とは違ふ、慾情は自分でない、基督教の信仰はそこに行くのである。時々、靈と云ふものは死ねば淸淨無垢であるかとは、よく問はれる所の問題であるが、これは靈を神とし、身體は汚れたるものと見る考へ方であつて、生て居る間は叱り飛ばして居る子供をも、死ねば神棚に祭つて拜むのは卽ちこれである。基督教は靈魂其ものにも汚がついてをると見るのである。ソコは佛教も大分細かい彼の輪廻說の如き、靈魂が浮ばれずに犬や猫になつて苦しむと說いた所は、基督教の靈魂を汚れたるものと見るのと似てをる。併し基督教では更に嚴密である。其の汚れは外にあらずして中にある。つまり罪は自分がなした、自分が罪に捕はれてをると說くのである。

之と同じ意味で天地は自分でない、身體其ものも自分ではない、慾情其ものも自分でない、自分は深い〳〵所にあるのである。ソコより自分は天地の神に接らなつてをる。ソコに人格があるのである。身體は變遷きはまりない、幼年時代の我と老年時の我とは非常な變化である。然し其中に變らぬものがある、それは卽ち眞の自分である、子供の時の惡戲は今より考ふれば夢の樣ではあるが、然し自分がしたのである、若年の失敗もやはり自分がしたのである。過去の自分も現在の自分も將來も決して別々の自分でない。其智識も趣味も身體も何もかも變化するけれども、自分そのものは一貫してをる。三十年前に犯した罪は法律では最早のがれて居つても、自分がしたと云ふ事は、神の前に云ひ遁がるべきでない。其の自分を深い〳〵處に見出すのが基督教の最も大事な所である。それを自覺して行く所に人格が發揮する、夫れを自覺せぬ人は身體はあつても人格はない。人格はこの奧深き自分から出て來る所のものである。我等はこのボンヤリとしてわからぬ自分を、非常に明かに認めねばならぬ。たとへば心の奧深い

所の秘密は何人も之を知らぬ、自分のみが知つてをる。大學には「十目の見る所、十手の指す所其れ嚴なる哉」とあるが、これは基督教の立場から云へば實に淺薄である。パウロは我は世の批評は何とも思はぬと云ふてをるが私なども屢々實驗する、世の批評ほど當らぬものはない。大事な所が外れて居る、皆な皮相である。心の奥底の深い所ろが分らぬ。子を知るは親に如かずと云ふが、親と雖も知ることが出來ない。私は今も遺憾に思ふことは、私の心事を父上がとう／＼解らないでしまつたことである。之は子として實に斷腸であつた。パウロは自分は自分自身にも分らぬ、基督が之を知り給ふと云つた。其深い所に自分を置かねばならぬ、即ち天地の神が自分を知り給ふのみであると定めねばならぬ。ソコから初めて奥深い所ろの自分が出て來るのである。

二

次に此の神の前にて自分を見出すときは、自分と云ふものが善い事もすれば惡い事もする所のものであると云ふ責任を自覺するのである。世の人は自分と云ふものゝ眞意義を認めないから、人がさせた、人がどうしたと、其責任を人に嫁して平然としてをる。たとへば彼の舊約の物語の如く、アダムはイブが食へと云つたと罪をイブに歸し、イブは蛇が敎へたと云つて蛇を惡者にする。之れは自分と云ふ所に心付かぬのである。人格としては此の位不見識な事はない、「我」のなきを表白してをる、これ實に恥辱である。基督教では自分のした事は當然自分の責任とし、した以上には自分の罪であると云ふことを自覺し、自分と云ふものは深い責任のあるものであると云ふことを自覺せしむるものである。故に一面から云へば基督教を信ずるのは苦痛である。けれども其の苦痛位は甘んじて耐へ忍ぶ。これ自分に責任あるを自覺するからである。

由來人間と云ふものは此の自分、即ち人格の意識なき間は罪を罪とも思はぬものである。日本人の盗

心あるのは實に驚くばかりてあるが、多數の日本人はどうも此の盗みと云ふことに就て間違つた觀念を持つて居るらしい。日本人は盗とは何ぞと云へば、墻壁を破ぶり、室内に侵入して金品を竊取することと心得てをるが、多人數の宴席などで器物を持ち歸つたり不當の分け前をとつたりすることは盗みと思つて居らぬらしい。私は先日こゝで某新聞が今日三越白木屋等の呉服店で見張り人がなければ地獄を信ずる宗敎信者の外は皆萬引をするだらうと云つた事に對し、之れ實に婦人を侮辱したものであると云つて、彼等の暴言を責めたのであつたが、或人は私に注意するに此言の決して過言でない事を以てした。而して其人の語るところによれば、立派な上流の夫人や金持の奥さんが盛にやるのだと云ふ。若し見張番が夫れを見付けた時には、豫ての御得意であるから表沙汰には出來ない。そこで月末の勘定書に「御持歸り品」とか、何とかの名目で、チャンとつけてある、夫れを見て平氣で仕拂ふのだと云ふ。實に呆

れた話ではないか。私は先頃或人から電車の車掌の實驗談を聞いた、電車に乘つて料金を拂はない人の多いのには實に驚く程だそうである。特に立派な奥樣が古い無効になつた乘換切符を、チョット手渡して知らぬ顔で下りて行くなどは一々咎め立てすればイクラでもあるそうである。之れ日本に於ける道德の徹底して居らぬ證據である。此の自分と云ふことが、明かに認められてをらぬ證據である。人格と云ふことの眞意義が了解されて居らぬからである。若しも自分の責任が明かに自覺されて居るならば人が見て居らうが居るまいが、人が取らうが取るまいが自分は斷じてしない。善い事も夫れと同樣に、人がやらなくても自分はやる。眞理と信じ義しとするところは斷乎として枉げぬと云ふことになる。ソコに自主自由が生ずるのである。

此自主自由、即ち自ら主たる事は非常に尊いことである。妻たるものでも子たるものでも、この自ら主たるところに眞の自由が存するのである。由來日

本人には此の自主の精神がない、娘が非道なる親の命に從つて身を賣るなどは、自ら主たるの精神なき著しき例である。基督敎を信ずれば此の精神を會得し、我は我に對し責任を持つのである。罪惡に就ても自分がした事は自分一人で神の前に全責任を負ふ。決して其責めを人に嫁するなどは、どんな事があつてもせぬ。何處までも自分が神の前に責任を感ずる、これ基督敎にして初めて發揮し得る所で、儒敎佛敎などには望まれぬ所のものである。即ち基督敎の最も大事な所は、吾等が神の前に何處までも自己の責任を自覺し、自分のなすべきことゝ、爲すべからざる事とを嚴正に自覺する所にあるのである。

我國は上に在す方は御一人なれども、それに五千萬の人民が繫がつてをつて萬事がこゝから發して來るのと同樣である。これ國家の本領である。吾等は自分が何で動いて居るか、どう云ふものによつて動いておるかと云ふ事を見ねばならぬ。形は時代に依り場所によりて變はる、然しながら其本領即ち大綱は決して變るものでない。日本人は常に此本末を顚倒し、精神を忘れて形式を追ひ、大綱を捕へずして外形を重んずるのである。早い話が、こゝに「靴の外昇降を禁ず」と云ふ處に行つて見ると、實に汚ないお話にならぬ。靴ならばドンナ土靴でも上つて行く下駄ならば汚れて居らぬのでも裸足にならねばならぬ。凡てが器械的習慣的で、人格で動いて居らぬ。

然るに基督敎は其大綱を敎ゆる所のものである、新約聖書の何處を見てもこれは斯うせい、アレは斯うせいと、人倫五常を一々敎へてはない、特にキリストの言行となるとそんな事は何もない。斯樣な事は時代〳〵によりて變化するところのものである。

三

最後に今一つは、此の自分と云ふとは、ずつと奧底の小なものゝやうなれど、實は大なるものである大綱である。之れ實に我等の本領のある所で、ソコから割出して萬事に應用して行くのである。例へば

或時には禁酒會が盛なる時もあらう、又或時には更に社會が頓着せぬこともあらう。是等は其時代〳〵に適應した形をとつて出て來るのである。基督はソコを達觀し給ふた。故に夫れ等の事は一言もなし給はず、其の大綱にして之を發揮すれば一以て萬世に通ずるものを說き給ふたのである。夫れは卽ち人格である。人格の尊嚴は千古萬古の眞理である。而して之れより發するものであつて、之を中外に施すも悖らず、古今に通ずるも謬らず、千狀萬態極まりなきものがある。之れ卽ち「愛」であつて、實に新約全書が極力說きたる所のものである。愛の原理は普遍的である、實にユニバーサルである。孔子も「我道一以て之を貫く」と云つたが之卽ち忠恕の道で、こゝは流石に孔子である。

聖書には「己の如く爾の隣を愛すべし」とある。「己の欲する所を人にも其の如くせよ」とある。基督者は自分を神の子とするものである。自分を愛することは卽ち神を愛することである。ソコを根據として

人を愛する。これは父子、夫婦、朋友、何れにも適用する事が出來る、精神はチャンと出來て居るのである。一夫一婦とは基督が立た所の掟ではない、己の欲する所を人にも其の如くせよと云ふ、愛の原理を夫婦と云ふものに當てはめて見るとコウなるのである、故に自然的であつて愛の原理が斯くせしめたのである。禮儀でも其通りである。西洋と日本とは全く違ふけれども、愛と云ふ事を土臺として行けば大抵は呑み込める。此方で無作法と思ふ事は、大抵兩者の間に此の愛の原理が行はれて居らぬのである。これを一々形式で行つた日には實に出來得ることでない。人格は此の原理に由つて活動する、道德は其の原理の應用に外ならないのである。之を要するに第一には、自分と云ふものゝ根底を自覺すること、第二に自主自由の責任を自覺すること、次に自分と云ふものが千變萬化の活動をなすこと、之れ人格の性情である。基督敎はこの人格を發揮養成する所ろのものに外ならない。（婦人講演會に於ける講話梗槪筆記）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界最大の美

宮川經輝

一

私は此所にも彼所にも、世界到る處に美を見出します。舞子の濱の夕照を見ては、ア、美なる哉、世界何れの處にか斯の如き景色があると、自然の美に打たれ、又彼の米國ヨセミチーの大公園に入つて、二千六百尺の斷崖より落下する瀑布を見ては其豪壯なる瀑の美に見惚た。又羅馬のサンペテロ大寺院の大建築の前に立つ時は其壯麗なる美觀に驚き、建築の事などはわからない私にも、如何にも建築美がわかるやうな感がした。其他御婦人方が滿艦飾をしてコテ／＼と塗りたてゝ居るのを見ては、ツマラない美と云ふ美を感じ、田舍娘が裾もあらわに働いてをる處を見ると、無邪氣の美を感ずる實に到る處、美を發見するに難くないのである。

けれども私の心中に感ずる所の美は決してそんなものではない。此の夏、有馬に遊んで山奥の鼓が瀧に行つた、幽寂の境である。やがて一雙の鶺鴒が、やつて來て嬉々として流を上下して、樂んでをる。自分はしばらく見惚れてをつた。思つた、嗚呼我は動かない岩を愛せず、情なき流水を愛せず、實に飛びまわる鶺鴒を愛す、鶺鴒なかりせば我は十分間にして、こゝを去つたであらうと。然も鳥の遊ぶのは

乙女子がほゝ笑むに如かない。何が美しいと云つても乙女子が微笑にまさつて美しいものはない。日本の寫眞屋では「動きなさるな、動きなさるな」と云つて撮る。西洋では「笑み給へ、笑み給へ」と云つて、笑つて居るところを撮すのである。如何に乙女子なりとてオツにすました所はよいものでない、尊ろスゴいものである。笑つた顔には何物にも換へ難き美がある。若しもこの笑を人生から取り去つたとすれば、實にたまつたものでない。世の中は實に陰鬱な、不愉快な、此の世ながらの地獄と化つてしまふであらう。天が人に笑顔を與へ給ひしは非常なる恩寵と云はねばならぬ。然しながら眞の美と云ふものは、其人の人格から發露するものでなければならぬ。人をして心から歎美せしめ、敬慕せしむるわけには行かぬ。自分は此の意味に於て、音樂美よりも自然美よりも、藝術美よりも何よりも、かよりも人格美を好むものである。

然らば人格美とは何ぞやと問ふであらう。之れは云はぬが花かもしれん。ナイヤガラの瀑も、之を分析して見れば裏の井戸水と違はない、或者は分析しない所ろに價値がある。強て人格とは何ぞやと知らんとならばこれは元良博士に往くがよい。自分は今二三の實驗せし所によりて、之を語つて見たい。

予が尤も最初に感じた事は婦人アナムフアールの人格美である。予は其時同志社卒業前であつたが、彼女の傳記を繙いて、其の美しき性格を持て世に立つた事を見て大に感動した事を今に記臆してをる。次ぎは牧師になつて大阪に往つてからの事である、誰れにもよくあることであるが、神學生が學校を出てから二三年は頬の肉が落ちて、顔が青白くなる、余の如きもそうであつて、牧會と云ふことが實に苦しく、日曜の夕方になればガツカリして、夜の說教をする勇氣がない位であつた。所が元は松山の士族で、西洋人のコツクをしてをる夫婦の者があつた。日曜の夕方訪ねると何時でも此婦人は私に牛乳を暖

めて出して、お上りなさいとすゝめた。元來私は牛乳は嫌ひである、今日でも牛乳はのまない。然るに其婦がお上なさいと云つて出せば、手にとつて呑む實にうまい、そうして非常に元氣が出て、之なら今夜の説敎がやれると云ふ確信が勃々として起つて來た。これはきらひな牛乳が元氣をつけたのでない、牛乳の背後に人格があつて、其人格より發する愛が私の靈をはげましたからである。或時病氣をして居ると此婦人がココアを持つて來た、そうして私を慰めてくれた、私の病はやがて癒えてしまつた。これココアが私をして起たしめたのでない、持て來た人の人格が私を起たしめたのである。然るに此婦人が大患に罹つた、危篤であると云ふ、往つて見ると三疊敷の室に横はつて、非常に苦しい病氣であつた。私を見ると雪のやうな手を出したから、それを提つた、苦しいかと問ふたら「天のおとう樣の所に歸入をするのに、何が苦しう御座いませう」と云ふかと思ふと、やがて眠るが如く、スヤ〳〵と死んで仕舞つた。其時彼女の顏に殘つた、平安の相に實に何ともかとも云へぬかう〳〵しさで、ア、之れこそ人格の美と云ふものであらうと思つた。

また熊本洋學校に在學してをつた時の事である。長崎からモンドヘル、ボルデンの兩宣敎師が來て、ゼンス校長が案內して學校を參觀せられた事があつたが、ゼンス先生がモンドヘル氏を右に、ボルデン氏を左にして三人立つて學生に面せられし時、ゼンス先生の偉大なる人格が表はれて、私は其人格の美にみとれた事があつた。又二十餘年前の事である、米國ボストンに於て組合敎會の世界大會が開かれし時、マサチユーセッツ洲知事のオルコット氏が歡迎の演説をせられたのであつたが、實に偉大なる人格で、ア、エライものである、あんな人格が日本にも一人でも居つたならば、如何に我國は幸福であらうと熟々思つた事があつた。自分は何處に往つても此人格が見たい。米國に行つても、此の人格美が見たい。キリストに似た圓滿完全の人格の人が見たいと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

思つて歩いたが、米國にもない、英國にもない、歐洲諸國にもない。否な今日私を滿足せしむる者は人の中にはない、あると思へばそれはホンの一部だけである。だん〳〵探すとボロが出る、そう人を批評的に見るのはいかん、分析したらどんな人でも缺點はあると云ふので、成る丈け善い方に善い方にと見るのであるが、矢張ない。殊に日本などにはない。思ふに之れは迚も人間の中には求められない事である。一部は出來るが、全部は望まれない。然るにナザレのイエス、キリストを研究して見ると。こゝに全部が遺憾なく表されてをる。之れだ、之れならば滿足だと思はざるを得ない。皆樣もキリストに往つたならば、確かに滿足が出來るだらう。此中には既にキリストに往つて滿足して居る方があると思ふ。孔子も釋迦もプラトーも、ソクラテスも實に立派な人であるけれどもキリストの人格に至りては、彼の富士の高根が迥かに雲井に聳えて、足柄箱根等の群山を壓して居るが如く古今東西の偉人聖人の上に秀でゝ居らるゝ事は申すまでもない。彼は神と人とのために身を捧げられ、人類の罪を救ふために、自らの命をさし出された。如何に其の人格の美はしきかはこれでも分ります。實にキリストの御人格は世界最大の美で、即ち世界の人格美は凝つてキリストとなつてをるのである。

三

然らばキリストを知るには如何にすべきか。曰く學ぶに如かず、何を學ぶべきか。私は聖書を學ぶべしと思ふ、先づ馬可傳を學ぶべしと思ふ、馬可傳にはペテロもパウロもは入つて居る、色々と議論もあるが、今日はそれは論せぬ。私の見た馬可傳はコッコッとして筆數を少くした墨繪のやうである。馬可傳に表はれたキリストは大將軍のやうである。そこで婦人方には何と云つても路加傳で、路加傳は婦人必讀の書と云つてもよい。かの書中にあるエリサベツも、マリヤもマルタも皆婦人であるが、之れは皆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なキリストと云ふ理想の人を表はすための背景として畫かれたものである。路加傳は人を尊び人を題目とした希臘人を目當として書いたものだと云ふが、或はそうかもしれん。兎に角、圓滿完全にして、缺けたところなきキリストを研究するには最も適當な本である。今一つ忘るべからざる本がある、夫れは約翰傳である。約翰傳はキリスト傳ではない。キリストの神の子であることを書かんとして、筆をとつたもので、キリストの傳記としては價値なきものかもしれん。然しキリストを神の子として畫き出してをる筆致は何物も之に及ばぬ。試みに此書の一章十四節を見れば、「それ道肉體となりて我儕の間に寄れり、我儕その榮を見るに實に父の生みたまへる獨子の榮にして恩寵と眞理に充てり」とある。私は此處を「我儕其人格を見るに實に父の生み給へる獨子の人格にして恩寵と眞理に充てり」と申したい、實にその人格のキリストが明かに、美しく私共の目にかゞやいてをる。そして其背後には無限の愛と誠が充ちあふれて居る約翰傳を讀み去り讀み來れば、其中には靈なるキリストがゐまして、慰藉者となり、救主となりて表はるゝのである。されば馬可傳には將軍としてのキリストが畫かれ路加傳には理想の人としての圓滿完全なキリストが畫かれ、約翰傳には天父の御性格を其儘に具へたるキリストを書かんとして居ると云ふことが出來る。これ等の書をとうしてキリストの美はしい人格を皆さんが御學びなさる時に、心中必ず深く感發するところが御座いませう。

皆樣は容姿を整ふるために毎朝、鏡の前に座するのである、鏡の前に座るのは、肉體美を發揮せんためである。今皆さんが十分二十分鏡の前に座する代りに、靜かなる室にて聖書を讀み「天の父の完きが如く爾曹も亦完くすべし」と云ふ高遠の理想を味ひ「凡て疲れたるもの、重きを負へる者は我に來れ」と云ふ同情ある慰安を味ふときに、キリストと云ふ人格は益々明かに諸君の心の中にあらはれ來りて、

皆さんは知らず〳〵の間に優しき品格となり、内に非常なる力を得て、己が使命のためには火中に入るをも辭せず、夫や子女のためには我身を犠牲とするの力が出で來るのである。そうして此の內なる生命が聖化され來る時に、我が顔を鏡に映して見れば、キリストの御顔が天の父に接してヘルモン山上に於て皎々と輝き給ふた如く、皆さんの顔が輝いて人格の光が表はれて來ることゝ思ふ。婦人と云ふものは肉體美のないのを非常に苦にするものである。これ程馬鹿氣た事はない。彼のアンクル、トムス、キャビンの著者ハリエット、ビーチャー、ストー夫人は如何。彼は或時ストー博士が旅行せる彼女を停車場に迎へたが、其の時間に着かないので、博士は斯々と馬車屋に頼んでをいて歸つたが、余り遲いから又出掛けて行つて、まだ着かぬやうかと馬車屋に聞くと、博士夫人のやうな方は一向見えません、只今、田舎女のやうな人が子供をつれて此處を通つたばかりですと答へた。博士は「ソレだそれが私の夫人なのだ」と云つたやうな風采のあがらぬ婦人であつた。然るに此婦人が彼の可憐なる四百萬の黒奴に自由を與へた愛の女神、ビーチャー　ストー夫人である。今日ストー夫人を思ふもの誰れも其容貌の美醜を云ふ者はない、何れも皆彼女の內より發せし美はしき愛の精神を歎美するのである。アヽ欲しいものは內的生命の發揮である、靈性に研きをかける事である、人格を發揮することである、

四

皆さんの中には如何にせば我が容貌を美ならしむべきかと鏡の前に座つて、廂髪を出して見たり、引こめて見たり、リボンをつけて見たり、簪をさして見たりする方もあらう。そうしてアヽ此の鼻がもう少し高ければなアと喞ち、此の口がもう少し少さければよいにと嘆き終にはお母さんに小言を持つて行き兼ねまじき程に、憂き身を窶さるゝ方もあるかと思ふ。世の中に之れより愚な話はない。若しもこんな心配の代りに皆さんが如何にして我靈性を研き、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人格を美はしくすべきかと云ふことに心をとめて、先に私が申したやうに、路加傳約翰傳其の他の聖書を學び、キリストの御人格に接し、内なる我にお裝飾をすることを、努め勵みまするならば、皆さんの御人格は知らず〳〵の間に、實に美はしい光を放ちヒーチャー、ストー夫人が絶世の醜婦でありながら今日世界の人より其美名を歌はるゝが如く、皆さんも亦た立派な人格の美を發揮することが出來るのであらう。茲に至れば、少し位鼻が低からうが、眼が少さからうが、口が大きすぎやうが、そんな顔の道具だてなどは敢て問ふ所ろでない。「かたちこそ深山かくれの朽木なれ心は花となさばなりなむ」皆さんの内より發する光は、恰も太陽が正面に見ると其光が赫々として其本體を見る能はざるが如く、皆さんの顔より發して、見る人をしてア、立派な人よ、見上げた人格であるよと讃嘆せざるを得ないであらうと思ふ。

凡て人は信ずる者に似て來る者である。聖書を繙き、キリストの御人格に觸れ、彼れの御足の跡を辿りて、須臾もキリストを離れず、夢にもキリストを見るに至りまするならば、即ちパウロの云ふたやうに、我れ生くるにあらず、キリスト我にありて生くる也、と云ふ境涯に至りまするならば、今ま申上げたやうな人格の美を我物とする事が出來るであらうと思ふ。（本郷教會婦人會講演梗概筆記校閲を經ず聖山生）

早起と花

毎朝垣根に紅白の色とり〳〵に咲く朝顔を、子供らが欲しいと強請みますけれども、唯無暗にもぎ取つて、蹂躪る位なものと思ひまして、成可く摘らせない樣に致しましたが、頑是ない子供の事、いけないと申せば申す程欲しくて堪らないのです。夫からこんな約束を致しました。毎朝起されずに一番早く起きた子が摘つても宜い事。處が末の子の七つになるのが五時には毎朝起きて人の見ぬ間に朝顔を獨占めにして皆摘つて了ひましてね、紙の間に押花にしては樂んで居りました。他の人達が目が醒める時分には一つもありません。朝起の獎勵もこれでは困ると思ひまして摘る事を禁じまして以來はまた以前の木阿彌、すつかり寢坊になつて仕舞つて大笑ひいたしました。

男女問題の宗教的意義（二）

安部清藏

六

然らば基督以來の教徒は、皆此新人なりしやと云ふ質問が出るに違いない。予輩は不幸にして、然りと答へ得ぬ。何んとなれば、基督に因て新たにせられたる男女關係の意義は、甚だ深遠にして、多數の教徒は永く之れを自覺するに至らなかつた。多くは舊約の原罪說に從はれて、ソレで滿足し來つたのである。漸く昨今に至り、其の意義に氣が付き初めた位ひである。予は何故女尊男卑の習慣を有する歐米に於て、モ少し早く此の意義が氣付かれなかつたかと怪むものである。ヨクも舊約的原罪說が、あれ程强健な泰西婦人を屈服せしめて、アレ迄に良妻賢母たらしめ得たものだと思ふのである。只舊約思想の感化の偉大なるを感嘆する外はない。併し歐米の婦人は、何處までも舊約の一部思想にのみ壓服されるものではない。彼れ等は今や原罪說以前の婦人の權利を要求し初めたのである。彼等は慥かに其權利を要求する理由を持つて居る。即ち救主基督を彼等女性の間から、生み出したと云ふ事柄である。彼に由つて婦人は、原罪を贖ひ、新人の特權を與へられて居る筈である。

尤も基督を生んだ以來、婦人の位置は非常に高くなつたのは事實である。特にギリシヤ、ロマの風を受けて、婦人崇拜の精神は、遂にマリヤ崇拜となり婦人は非常なる尊敬を得るに至つた。婦人は殆んど天使でもあるかの如く、婦人の前では、煙草を吹かさず、酒を吞まず、戲談も言はぬと云ふ風になつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

併し斯くまで尊敬せられ、敬遠主義を行はれるのは決して婦人の心よしとする所で無い。ソコで近代の女性は此祭壇から自ら下りて、男子と同列の所に立たしめよと要求するに至つたのでる。其要求を實現する爲めには、隨分亂暴な事もやる。例之ば男と同じやうに煙草も吹かし、酒も呑み男が選擧運動をすれば、女もやる。男が强迫手段を取れば、女もとる。男が兵隊になれば、女も兵隊になつて見せると云ふ風で、如何にも突飛なやり方ではあるが其裏面には、無暗に天使の列に祭り上げないで、男と同列に据へて呉れと云ふ要求が潜んで居る。

之れを東洋に見る時は、全く向ふと反對である。永く因果を含められて、萎縮して居つたものが、一時に因果の束縛から放たれて、泰西の汪盛なる女權恢復運動

に接したのである。上から下に降るのは困難でないが、下から上に登るのは困難である。素より兩方とも混亂を免かれる事は出來ぬが、ドチラかと云へば泰西の方が仕末がし易い。東洋の方は仲々困つたものである。支那や印度の事は、先づ兎に角として日本の事をドウするか。兎ても良妻賢母主義位ひで此の大潮流を喰ひ止める事は出來ぬ。此際尤も大切な事は泰西の成行きを詳細に研究する事である。

予輩の見る所を以てすれば此問題に終局の解決を與ふるものは、基督敎であると思ふ。基督敎がモー度新元氣を喚び起して、十六七世紀の頃、舊歐羅巴から、新歐羅巴を生み出したやうに、廿世紀以後に於て、必ず舊世界から新世界を生み出す事を信じて疑はぬ、此見當は恐らく違はない。少くとも我等基督敎徒は、ソレを信じて居る。然らば外國の男女問題も、基督敎に由つて全然解決すべきかドウか。素より世界の大勢から言ふ時は、日本の男女もドコの男女も少しも違ひはない。併し日本には日本の歷史があるから、其歷史に全く無關係な解決法は、ヨシ說として解決されても、實際に力をなさない。泰西には舊約の理想が、說明としても實際としても有力である如く、日本には日本の舊約が權威を持つて居る。ソレを顧みずしては日本の問題は解決できぬ。

七

ソコで多くの人々は、日本の國粹を言ふのである併し今の國粹論者は、其眼孔甚だ狹くして、僅かに德川三百年位ひまでしか、遡り得ぬ。何故モット遠く上つて、神代の卷まで行かぬか。コヽに日本の將來を豫定すべき理想が潛められて居る。由來一國の進步發達は、其建國當時の理想に支配さるゝものが多い。猶太の如き日本の如きは其の好適例である。神武の理想は、今も尙ほ我國民の上下を支配して居る。然らば神武當時若しくは其前後の理想は、今も尙ほ我國民を支配し得るものである。已に然りとすれば、神代の卷から、建國初代に於ける日本民族の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

男女關係は、頗る注意すべきものでないか。予は國粹論者が、僅々三四百年前の歴史にのみ抗泥して、此國粹の大本まで、歸り得ないのを、遺憾とするものである。予輩の見る所を以てすれば、神代の卷に潜められた理想は、實に大々的有意義のものであると思ふ。先づ第一日本の國祖たる天照太神は、女性に在らせられる。女性で以て高天原を統治せられた斯くの如き古傳を有する國は、他に滅多にない。豐芦原瑞穗國を產み出し給ふた、イザナギイザナミの命は其の浮橋に立せ給ふに於て、決して尊卑の差別はない。人代の時に至つても、女性にして帝位に卽き給ふた方々は澤山ある。社會的活動に於て、女性の領分は、仲々廣かつたやうだ。決して奧まつた所にのみ引込んで居つたものとは思へぬ。神功皇后の如きは、止むなき場合からではあるが、劍を取つて起ち給ふた。天鈿女命や板額の如き女性のあつた事を思ふと、日本古代の女性は、慥かに陽氣の照る所に養はれたものに違ひない。然るに支那の風俗が輸入されて、所謂奧様となり、印度の風俗が傳染して、御裏方となつて仕舞つた。本願寺の御裏方には、仲仲活發で、裏方どころか、奧様以上、表方とでも云ひ得る程に、活躍された方もあつたが、殘念な事には、亡くなられた。之れは佛敎でも儒敎でも、抑へきれない、大和民族の女性魂が、泰西の空氣に觸れて、自然に發揚した結果であらふと思ふ。今後とても、必ず此の種の婦人が、續々出るに違ひない。コレは單に西洋かぶれと云ふて仕舞ふ事は出來ぬ。我建國當時の理想が世界の空氣に觸れて、漸く頭を持ち上げかけたものと言はねばならぬ。

然らば日本の婦人も、神代其まゝに、統治權をも與へ、國政にも參與せしめ、戰爭にも出陣せしむべきかと云ふに、必ずしも古代に逆戻りする必要はない。併し婦人に適した職業があるならば、ドシ〳〵其の職業に就かせたら可いと思ふ。特に家を治めて行くと云ふやうな場合は、婦人の方が男子より利益な事がある。男子許りでゴツ〳〵して居る所ろを、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子が這入ると、頗る圓滑に纒る。教育の或方面なり、市政の一部なり、衛生とか慈善とか云ふ事は、男子よりは婦人の方が、ズット善く出來るかも知れぬ。武力に訴へて國を治める時は、男の方が能いが平和の場合には、婦德の方が必要である。天照太神がスサノオノ命の亂暴を治め給ふたのは、只女らしき德に由つてゞあつた。此婦德の輝き亘る所に、天下泰平の恩惠がある。素より婦人をして、男子のせねばならぬ事まで、要求せしむるのは、害あつて何等の益はない。ソンナ事を要求する婦人もあるまい要する所ろは婦人の長所を發揮して、其適所に適從せしむるのである。換言すれば婦人の特質を新らしく用ひて、新文明に貢献するのである。其の爲めに男子の職業が、減少するのは自然の勢である。恰も汽車や電車が、新しく採用されて、男子の運搬事業が、其範圍を減少したと同じ事である。併しソレが爲め、男子が路頭に迷ふ氣遣ひはない。天下は廣いから、自然他に發展の餘裕はある。況んや日本民族の如きは。將來大に世界の舞臺に發展せなければならぬ使命を持つて居るから、德川時代の退隱的婦人では、何んの用をなさぬ。内地の事など大抵の事柄は、婦人の手にて整理されて、男子は内顧の憂なくして、遠く勇往邁進するやうにならねばならぬ。而して男は男、女は女として、各其の特長を發揮して新天新地を開拓するのであるから、男尊女卑とか、女尊男卑とか、將た男女同權とか言ふ必要はない。實を云へば男女相俟つて、完全なる社會を造るのであるから、兩者互に相一致して並び立つ所ろに、完全なる男女の關係が成立するのである。之れ實に大和島根を經營し給ふたる、イザナギイザナミ二尊の姿であつて、又世界的宗敎たる基督敎の理想とする所である。卽ち男女相合ふて一體となるは、宗敎の奧義社會組織の根本、又倫理道德の基本である。

八

然らば男女問題の難關たる、出產の事はドウなる

か、男子は其特長を以て社會に貢獻し、女子は其特長を以て社會に貢獻するとした時に、先づ以て甲乙の分ちはない、公平なる運命と見る事が出來るが、出產丈けは婦人の役目である。社會的活動の婦人には、自然姙娠を避ける事になるは當然な勢である。如何にせば此缺陷を補ふべきか。舊來のやうに因果を含めたり、原罪は說く譯に行かぬ。如何にして婦人の役目を滿足に果さしむる事が出來るか。爰になると、男子は殆んど論ずる資格はない。婦人をして自ら決せしめねばならぬ。但し男子をして言はしむれば、婦人の出產は婦人をして愈其婦人たる特質を發揮せしむる所以であると斷じたい。殆と男子に强健なる體力、銳敏なる智力、確固たる意志があつて女子の開拓し得ない領域を開拓するが如く、女子は其柔軟なる體質と、綿密なる智力と、溫和なる感情を以て、男子の開拓し得さる領域を開拓するのである。而して女子は子を產む事により、愈其特質を發揮する事となり、男子は女子を得、子女を與へらるる事により、一層其特質を發揮する事になる。斯くて兩者互に相助け相補ふ間に於て、夫婦一體たるの實が現はるゝ事になれば、其所に男女の滿足と、社會の幸福は實現せらるる譯である。

勿論以上の幸福を味はんとならば、利己主義を捨てねばならぬ。男も女も、基督の十字架を荷ふ覺悟が必要である。今日の一大危險は、男女とも結婚を以て、直ちに幸福其ものゝ如く迷信する事である。一休の眞似をする譯ではないが。實際結婚は人をして、生死の堺に立たしめるものである。骸骨に對する位の考で、嚴正に且つ大決心を以てせねばならぬ而して夫婦一體たるの實を全ふせん爲めには、互に十字架を負ふ覺悟が必要である。元と〱性を異にして居る、其上に異つた境遇に、異つた敎育を受けたものが、互に一體となるのである。初めの間こそ靑春の血に支配されて、而白可笑しく暮す事も出來やうが、段々地金が出て、その差別相が相衝突するのは、當然な徑路である。之れを調和するの途は、

只だ基督の十字架である。基督の十字架は、男女双方の差別相を殺して、互に滿足し得る別天地に、新生命を得せしむるものである。此救ひなくして、夫婦相和せんとする時は、何れかに無理が出來る。到底滿足な一致は六ケしい。男尊女卑に弊がある如く、女尊男卑に弊がある。而して男女同權には、愈多くの弊がある。唯基督に據れる一致のみ、眞正の滿足を與へるものである。基督に據れる一致は、差別中の一致、一致中の差別で、宗教生活の眞髓を表現するものである。

要するに、男女の像は神の姿である。男女相結ばんとする衝動は、宗教乃至道德の源泉である。基督によつて、完全なる夫婦一體を成就するのは、やがて宗教の極致である。（終）

米國家庭の特質

籾倉小羊

一

米國家庭の特質は一言にして之を云へば充分に家庭の眞の意氣を認めてをる所にある。換言すれば米國の家庭は、家庭それ自身が一の社會であつて、個人と云ふものゝ尊嚴を認め、日本の家庭のやうに家長であるからとて、無上の命令權を振りまわすと云ふことはない。米國の家庭では女でも小供でも、夫れ相當の地位と人格とを認め、何處までも之を社會の一員として待遇し、親なるが故に、又兄姉なるが故に、小供や弟妹を己より一段低く見ると云ふが如きことは、決してありません。況んや日本の家庭でよく聞く、小供のくせに、とか、女のくせに、とか云ふ言葉は米國では決して聞かれぬ所ろのものである。米國の家庭では親子の間柄は一種の朋友的關係であつて、小供の兩親は、自分等を助言し、善導する益

友であると思つてをるが如き狀態であります。

何故米國の親達はこう云ふ風に小供を育つるかと云ふと、御承知の通り、米國と云ふ國は獨立自主の精神を尊ぶ國であるから、兩親たるものは小供の將來を思ひ、後日社會に立ち、又一家を持つ場合に、立派に社會の公人たり、一家の主婦たるを得るやうに、心を用ゐるのである。日本では親子の關係は全く主從のやうで、親は子に絶對無上權を振りまわし子は一も二もなく親に服從して畏れて居るやうでありますが、米國では茲は何處までも小供の人格を尊重して、之を發達せしむるために、最善を盡すのであるから、自然に小供は親を信賴し相親しむと云ふ事になります。從つて斯る家庭の間に人となれるものは、社會に出ても悠揚として活潑に、常に進取の氣象にとみ、人を愛し人を敬ひ、同時に自己の人格を保持し、我國の青年に往々見るところの萎縮的な退嬰的な、意氣地のない神經質的な猜疑心の多い、そうして批評的な人物は、米國に於て見出し難いところである。これは慥かに彼我家庭の相違より生ずる結果であると思ひます。

二

あちらの家庭で、我等の尤も感服するところは、萬事が實に規律正しいと云ふことである。家庭生活と云ふものゝ美點長所が遺憾なく發揮されてをることである。一日の計は朝にありとは我々が常に口にするところであるが。米國の主婦は、よく夫れを實行してゐます。彼等は明日の目論見は凡て前の夜にいたし、其日となればまづ朝の内に一日の厨房のことは片付けてしまふ、主人は職務に、子供は學校に出る。主婦は女中と共に晝食夕食の準備を大體午前中にやつて仕舞ふ。如何に遲くとも十時か十一時頃までにはすべて片付く。チャンと服裝をかへ化粧を了へて、各々自分の室で裁縫をするものはし、讀書をするものはする、晝食後の時間は女中でも何でも皆自分の時間なのである。而して夕方は主人の歸りを

まちて夕餐をすます。家族全體が一室に集りて、子供は復習をする、父も書見をする、母は編物をする又時には相供に打興じて其日の見聞を語り合ふて所感をのべると云ふ次第である。食事の献立などにおきましても、一週間否一ケ月の分を前以てチャンと定めて置いて、其日〳〵を其順序通りにチャンと仕度して行くから、少しも手間時間はかゝらない。これは何でもない小なことのやうでありますが、之れが影響は實に大なるものと思ふ。なぜなれば、一日の中に少くとも五六時間以上も自分の自由になる時間があると云ふことは其人にとりて實に非常なことであつて、之を修養のために使へば、我が人格を研き上げ、之を社會公共のために用ゆれば立派な事業が出來、之を智識を啓くために、又私の仕事のために用ゆれば夫れ相應の効果を奏します。これ實に彼國に於ける婦人や令孃達が盛んなる勢力を以て修養をいたし、又社會的の活動をいたす原因で、日本の家庭生活のやうにだら〳〵と不規律な生活をするのは啻に時間上の損耗のみならず、其失ふところは眞に莫大なものであらう。日本では婦人の解放とか何とか申します先に、先づこの家庭生活の改善が急務であらうと思ひます。

三

子供に對する親の取扱ひ方も注意を極めたもので至れり盡せりである。あちらでは子供が其友達を呼んで、晝食なり夕食なりを共にするのでありますが其時は親は其席に列せず、主客とも子供ばかりで自由に語り、且つ食はしむるのです、これも彼等が互にそれ相應の智識を交換して社交的性情を養はしめんとする心盡しである。又幼なき子供には特に注意を拂ひ、たとへば彼の玩具の如きも日本のそれの如く、唯だ譯もなく、汽車や自動車をまねたり、犬や馬を造つたりした、マッチ箱のやうなものでなく、夫れ〳〵兒童の年齢と智力とに應じ、智能を啓發し或は科學的の智識を與へ、品性をよくするやうなも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のを與へるのです。日本の玩具が商人の射利心にのみ一任して、教育家も家庭の父兄も、少しも其に注意を拂はないのは不思議でなりません。

四

最後に一言いたしたき事は、結婚問題である。多くの日本人中には米國と云へば自由結婚と云ふことを連想し從て風俗は腐敗し、男女の醜行は地に滿つる様に思ふ人も少なくないやうであるが、夫れは大なる間違である。成程米國の青年男女の交際が日本に比して自由であることは事實である。然しこれあるがために墮落の淵に陷り行く迄に沒常識沒理性でない。而して彼等は互に相誓ふに至るまでには實にすべての理性を働かせ、有らんかぎりの觀察をなして、後初めてそこに至るので、其間の双方の苦心は半面より見れば尋常一様のことではない。而して殊に注意すべきは、彼等が飽まで常識的にして、父母の賛成しそうもなき約束は、決して初めからしない事です。即ち兩親も之ならば賛成して下さると見當のついたもので、趣味、性情、智識の程度など、何から何まで將來を借にするに足る者が相結ぶので、日本等にある息子の妻と云ふよりも寧ろ我が嫁と云ふ標準で之を解決するが如きとなく、何處までも息子の妻と云ふ考への外はありませんから、猶更ら圓滿に解決せらるゝのでありませう。

米國人は個人主義で、結婚問題の如きは全く無茶苦茶であると思ふ人は全く米國の家庭の實情を知らない淺見者流で、彼等の實際は右の如く當事者責任者として充分に研究し、次に利害關係者たる兩親が賛成するのです。互に純潔な交際を繼續することは、彼等が人格の尊嚴を認め互に相敬し合ふ事さ、今一つは處女の神聖と云ふことは彼等の理想で、この事だけは何物を以てしても之と代るものなきに起因するのであると思ふ。（談話筆記文責記者）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜俎

信子の父様

紫嵐

今日は水曜日なので寄宿舍の風呂日。のぶ子はお風呂から出て、湯上りにネルの單衣を引かけて、ポツト赤くなつた頰に濡れ手拭をあて〻手欄に寄つたま〻、しばらくぼんやりしてゐたが、部屋に入るとやがてすつかり、ブラインドを閉ぢて、ベツドの上に横になつた。のぶ子は異樣の心の靜さを心が破れる前の靜さの樣な氣がして、身分ながら怖ろしく思つたのである。同室の友が入つて來て枕にうづまつてゐるのぶ子の顏を窺きこみながら、

「如何したの？氣持が惡いの？」

と聞いたけれども返事もしなければ、目も開かぬので又忍び足で出て行つた。

のぶ子の心臟には全身の血があつまつて張り裂けるまでに、一パイになつてゐる。しかも其血が死んだ人の血の樣に、冷たく堅まつて氣味惡う動かぬ樣に思はれる、のぶ子は無理に暫時眠らうと試みたが、とても駄目なので、決心した樣に、急に起き上つて手早く髮を結び着物を替へて、すつかり出來上ると机の前に嚴然と直つて、机の上を奇麗に掃いて、本箱から寫眞を一葉出して、それを机の上に立てかけた。それは法服を着たのぶ子の父樣の半身の姿である。で、その寫眞に目を据えながら硯の墨をすり初めた。卷紙をのべて筆に墨を含ませると、又暫時く寫眞をみつめてゐたが、筆太に「父樣」と書いた。のぶ子は強い烈しい感情を制へる樣に唇をかんで俯向いてゐたが、筆は濃い色をのこしてじり／＼と紙の

上を走つた。
父様！のぶ子は今參ります、父様の娘だけののぶ子の生涯は今日五時限りで終ります、此手紙は父様だけののぶ子の最後の手紙でございます。
父様に愛され、父様を愛してのぶ子の生涯は始りました、父様に愛せられて神の御愛を知り、父様を愛して初めてキリストをお慕ひ申す事を知つたのぶ子は、今日まで力強い一日〳〵を送つてまゐりました。父様！今夜父様ののぶ子は神の與へ給ふた人に、父様の御許を得て、この心、この身を捧ぐる誓を致します……
この目で其人を見、此心で其人を思ふ前に、のぶ子は生れてから今日まで二十餘年間、父様の御恩愛の陰に生つた、そのまゝの心で、しみ〴〵父様に御禮を申上たうございます。
父様に何も知らぬ柔かいのぶより心の強い愛の印象をきざまれてから、何の涙も知らぬ前に御情に深く涙を味ひました。そして其印象は常に強い力となつて今日までのぶ子を正しい道に導いて呉れました。のぶ子が今日まで倒れずにまゐりましたのはのぶ子が強いのではなく、のぶ子の中に働いてゐた父様の御愛が強かつたからでございます。
父様、のぶ子は父様から遠くはなれて、今日この厳粛な誓をいたしますことが、たゞ〳〵堪え難いまでに心苦しく存じます。勿論この日、此時を覺えて、はるかに御祈りの中にのぶ子の名をよんで居て下さると信じては居りますが、弱いのぶ子は今、父様の御聲が伺ひたく、おかほが拜したく、自分にもわからぬ涙が拭いても〳〵も湧いて參ります。
父様、此破れさうなのぶ子の心、此やるせない思父様だけは、すつかりわかつて下さると思ひますと、うれしうございます。今父様はきつとのぶ子を思つて下さるです。
父様　行つて參ります。

父様の
のぶ子より

のぶ子の
　父樣に

書き終つて兩手を組み合せて、新に閉ぢたのぶ子の目からは瀧の樣に涙があふれ落ちた。

その夜一時過、母樣代りに付き添うて行つた先生と共に歸つて來た、のぶ子は月光に美しく洗はれてゐるヴエランダに出て、跪づいて「神が與へ給ひし人を父樣を愛した樣な愛をもて愛する事を許し給へ」と祈つて床についた。

◎　◎　◎　◎　◎

のぶ子は初めて凡てを離れて、女の女だけの悲といふものを悟つた。如何なる時も如何なる場合にも涙なき喜を味ふ事を許されぬ弱きものゝ運命をしみ〴〵と悟つた。

二千年の昔人の世の始貴い純潔な愛の泉に、一滴罪の血をたらした女の業は、今に其報を負うてゐる。其眞紅の一滴の濃いしたゝりは愛の泉の永久なるが如く、限りなく流れてゆく。その滴のたれた、むごい音は女の胸のビートのつゞく限り胸から胸へと響いてゆく、アゝ女は己が罪の姿を他の人の心に見出して凡てを忘れて悲しむ時、初めて眞の幸を歡へられるのである。泣きつゝ女は生きる、悶えつゝ女はよろこぶのである。

神が人類に與へ賜ふた最も美しく貴い、そして女だけがもつ事の出來る此處女の心をさへ保つことを許されぬ。此心を吾からすてゝ、癒へやうもない深い傷を默して忍んだ時、女は初めて生きる、救はれるのである。アゝ誰か女ならで、初めて罪に泣いたイブの裔ならでこの深い涙を知る事が出來よう。こうした女の心をのぶ子は人を戀して初めて知つたのである。

◎　◎　◎　◎　◎

夕日うすれゆく寄宿舍の窓際に、のぶ子は袴のまま父樣の手紙を握つて泣きくづれて居る。

「……………御身を愛し、いつくしむ情のあまり、出來得べくば一生共に暮したしと思ひしは父の誤り

御身は初よりあづけられし主の婢にして吾等は唯これを主の御用に適するまで育て上ぐる義務を命ぜられたるにて、今御身が其人を得、吾等が許をはなれて、主に招かれし所に行かんとするに際し父は大なる感謝と喜とをこそ覺ゆれ、何等心に苦しむ所あるはずもなき事に候………。

父はまだ見ず知らざる人なれど、主の賜ひし人、御身の愛する人なれば更に不滿は無之候………。

のぶ子、御身の祈は今までの如く常に老いたる父と共にあり。父の祈は永久の御身の上にある事を覺かれたし。父は、そをせめてもの慰といたし居り候。あゝ人皆の良嫁よと祝はるゝに一人父の胸底深くこの憂愁の思ある、そも何の故か………。

⁂

のぶ子は「父様！父様！」と心に叫んで泣く外は無かつた。

此時ドアーを靜に叩いて「のぶ子さん」と入つて來たのはのぶ子の親しくしてゐる音樂の先生。のぶ子の樣を見て呆れた樣にしばらく見てゐたが、

「のぶ子さん、一體どうしたの？」

のぶ子は、だまつて涙にしみてゐる父樣の手紙を先生の膝にのせた。先生も無言で一讀して、

「マアねー。今更ではないけれども、のぶ子さんの父樣とは、どうしてこうでせうね、のぶ子さんの泣くのも無理はないし、御父樣がこうお思になるのも道理だと思はれるし……、親のない私には兩方の心に泣かされますよ。」

先生は目鏡をはづしてハンケチを目にあてたまゝしばらく言葉もない。

「サアのぶ子さん、もうおよしなさい、此頃のあなたの樣に考へてばかりゐては身にさはりますよ、私もう歸るのだから散歩ながら一緒に外へ出ませう、ね」濡れた頬を袖でかくしながらのぶ子は先生と外へ出た。（以下次號）

珍しき改悔談

せいさん

今度の擴張傳道には各教會とも優渥なる恩惠を蒙つたのであるが、玆に本郷教會の五十餘名の受洗者の中に、夫婦揃つて受洗せられた方がある。御名前は預つてをくが、其主人は青年時代に某地の耶蘇教學校で學んだ方で、當時は受洗する迄には行かなかつたが、基督教的精神は深く其心の中に浸みこんで社會に出られてからは、凡て此の主義精神を以て萬事を處決せられゐのであつた。奥さんは今日の學校教育を受けた方ではないが、極めて嚴格な家庭に育たれたので、何から何まで女大學其まゝの精神。他人の子女を十五人も育て上げ、中には不良少年などもありて、盗心を矯め正すためには自分も共に斷食して一晝夜も板の間に正座すると云ふ風な、頗る意氣の壯な方である。之れを一言して云へば舊時代の

所謂賢母良妻の典型で、海老名先生が地金がいゝんだとおつしやつたのは、實に要領を得て居る。此の夫にして此妻ありで、夫は律義一遍己が良心に邪しき事は一歩も假借せず。妻は夙に起き夜半に寢ね、唯家の爲め夫のためと勵むので他所の見る目は、理想の家庭の如く見ゆるが、さて内心に立入つて見れば、夫の妻を見る目には今一息と云ふ所がある。夫は時々お前は私のために身を粉にして働いてくれるのは、實に有難いけれども今一息と云ふ肝心の所が分らぬのは、殘念だ」と、こう云はれる。奥さんは夫れが腹が立つてならぬ。他所の奥さんは花見遊山は云はずもあれ、やれ歌舞妓座だの、市村座だのと云つて居られるのに、自分は永い東京の生活にも上野淺草の方角さへ知らず、毎日眞黑くなつて働いて居るのに之れでもまだ足らぬとは、男と云ふものは實に我儘なものだと、益す意地に出て、馬車馬のやうに働かれるのであつた。話にすれば短いが讀者は此の間既に十七八年の歲月を閲し、幾多人生の轉變を經たるものと知られたい。

斯るところに生活上の大激變に遭遇した。夫れ

は主人が他の二三の人と協同してなしつゝあつた事業が、或る事情から段々非運に向ひ、遂に破産の運命に立ち至つた事である。全體斯る事件は所謂事の敗るゝは、敗るゝ日に敗るゝにあらずで、必ず豫じめ知り得る筈のものであるから、他の人達は、少しく事業が左前になつて來たと見るや、すぐ我財産を夫れ〳〵他の名前にして逃げ道を搆へた。然るに此方はそんな事は斷じてせぬ。斯る陋劣手段を以て、安きを得んよりは俯仰天地に恥ぢざる清き心事を以て餓死するに如かずとしたのである。間もなく豫期したる時は到來した。云ふ迄もなく彼は無一物となり家族を伴ふて、雨露を凌ぐばかりの貧民生活に激變した。此の時の奥さんの心中や實に斷腸であつたらう。外の仲間は一物も失はずして依然昨日の生活をしてをる。彼等の奥さん達は相變らず芝居に現をぬかしてをる。うちの主人は馬鹿正直である、コウまで落ぶれなくてもよさそうなものだ。慥かに主人の馬鹿正直がこうなつたんだ。「だから云はない事じゃない、アレ程今の中に何とかせいと云ふのに、聞かないからアンナ事になるんだ。正直もあそこまで行つちや、馬鹿だ」など云ふ噂も聞く。奥さんも眞實にうちの主人は馬鹿だと思つた。而して「あなたが惡い、あなたが惡い」と責め出したのである。之れは普通人情として已むを得ない事である。此「あなたが惡い」は約六ケ月續いたそうであるが、責める奥さんの身になりても隨分つらいであらうが、責めらるゝ御主人の心中は眞に斷腸であつたらうと察せらるゝ、何故なれば「あなたはエライ」と賞め慰めねばならぬ。唯一人の人に「あなたがワルイ」と責められるからである。或日主人は鮫橋の貧民窟を視察した。貧民と云ふものはどんな氣持ちで生活して居るものであるかと云ふ事を知らんためであつた。貧乏もこゝらがどん底である。人か豚か玆に至れば何人も人間は何故斯うして迄も生きて居らねばならぬ者であらうかと思はないものはない。ソコを彼方此方と歩いて居ると、口汚なく喧嘩よと思ふまもなく、

けたゝましい音がする。行つて見ると、おかみさんが主人を捩ぢ伏せ、其上から馬乗りに乗つて、「此野郎どうしやがつたと」叩てをる。ソコで彼は仲に入つて、おかみさんを引き退け、何事ですと、聞いて見ると「明日の米代二十五錢を此野郎が飲んでしまいやがつた」との事である。そこで彼は五十錢を與へてソコを引上げてしまつた。

或日奥様は又例の如く「貴方がワルイを」始めた。平常は徹頭徹尾、沈默主義で、奥さんがオコリ疲れた頃ソット頭を上げて「もうお仕舞か」と云つて莞爾として居るのに、此度は随分火の手の烈しかつたと見えて、さすが主人公も、

「そんなに貧乏といふ事が辛けりや、鮫橋に行つてモット貧乏な人を見て來い、何かお前の爲になる事を見出すであらう」と口をきいた。

所が奥さんもさる者である。「そうですか、じやア之から見に行つて參りませう」と局面開展して、奥様の鮫ケ橋觀察となつた。遉がは奥様である、こゝが先生の所謂地獄のいゝ所であらう。

去る三月二十日の午後である。芝の新網、下谷の萬年町、四谷の鮫ケ橋と云へば東京の三貧民窟である、其鮫ケ橋に足をふみ込んだ。爲めになる事はどこにあるかとアチラコチラと歩いて居ると、とある露路の入口に七十ばかりの老婆が、まだ薄寒いのに腰卷と、襦袢みたやうなものを引かけて、芋屋が切りすてた芋の小さい首尾を叮嚀に皮をむいてをる。

彼女は夫れを見て、ア、若しも此人が私の母で共に此芋の首尾を食べる境遇でありましたらどうしようなどゝ考へて居りますと、ソコに三十五六の車夫風の男が東々と進んで來た。

「お婆さん、今日はいゝ事があつてね、内の野郎とおばあさんに土産を買つて來たよ」と云つて大福餅を二つ出した。そして、

「おばアさんの好きな鹽餡だよ。もうそんな物はやめな、温い御飯を御馳走するから」と云つて奥の方にサッサと行つて仕舞ふ。お婆さんはホク／＼喜んで、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「お前さんが正直だから、そんないゝ事がある。お前さんのやうな情ふかい人はキット出世するよ」、と云ふ。

察するに母子でも親戚でもないらしい。奥樣は其男について露路の奥の方に足を運んだ。主人の聲で、

「今歸つたよ」三十前後のかみさんが出て來て、

「オヤ早かつたね」とにつこりする。

「今日はねいゝ事があつたよ、アレから行つたら旦那が損料は入らんて云ふんだらう。緣起がいゝやね。夫れから出掛たら、内の野郎位の坊ちやんをつれた上品な奥樣が中宿までてんでしよう。ところが途中で腹が痛いてね、お湯なんか貰つて上げたりしたもんだから、御隱居さんが大層喜んでね、定は六十錢たけど、一圓くれたよ」

「そうかい、よかつたね。お前さんが正直だからそんなにいゝ事があるんだよ」。

「野郎にも土產に太福を買つて來た。それからね、ツイすきなもんだからお前にや濟まなかつたけれど汁粉を五錢食べたよ」。

「そう、偶にやすきな物を食べる方がいゝよ、身につくからね」。

其中に十歲ばかりの男兒が勇ましく驅け込んで來て「ちやんお歸り」と云ふ。

「今日はお土產があるよ」

「そう、やき芋、」

「太福」

「太福？、ソーいゝな太福」とさも嬉しさうである。

すると主人の聲で、

「何だい、臭いがするぢやないか」

「ア、今日は私もいゝ事があつたのよ。私が屑綿をわけて居つたら、親方がお前さんのは正直だから奇麗だつてね、六錢餘計置いて行つたよ。だから今日はお前さんの好きな豆腐のお汁をしやうと思つてね豆腐を二錢、味噌を一錢、三ツ葉を一錢買つてそつた所だよ。

「そうかい、そいつア有難てい。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

始終の樣子を聞いてをつた奥樣の頰には涙がポロリ〳〵と玉をなして辷つて行く。自分は貧せりと雖も壹圓や二圓の金が懷にないことはない。然るに自分ほどの貧乏者は世界に又とない氣になつて、苦しい辛いと夫を責め、人を恨み世を恨みしは、何たるあさましい心であつたらう。たつた一圓の金を得てい〻事があつたい〻事があつたと、四五人の者が心から喜んでをる。我心は此人たちの心に及ばざること實に遠い。ア、惡かつた、濟まなかつたと、思へば思ふほど悔悟の涙はいとゞせきあへぬ。斯くて奥樣の鮫ケ橋視察は御主人以上の大なるものを得て歸られたのである。

此事あつて以後の奥樣は實に別人の樣に變つて仕舞つて、無口の御主人が「此頃は山の神が荒れぬので淋しいよ」と冷かす位靜かになつた。奥樣は眞面目である。

「旦那、何か貧しくなる方法はありますまいか。」

「夫れはいくらでもある、然し今から學校にも行けないし、まづ敎會にでも行つて心と云ふもの〻修養をするんだ。今までお前が其氣になれなかつたからだが、今日其氣になつたのは大變嬉しい。丁度明日四谷小學校で海老名彈正と云ふ牧師さんの演説があるから行つて見るがよい」と云はれる。

今年の四月初め、海老名先生が四谷小學校から聘されて、父兄のために一場の講話を試みられたことがあつた。其時この奥さんは之を聞いたのであつたがもと〳〵發明な奥さんなれば一度で非常に感服してしまつて、直ちに熱心に求道心を起し、其後四谷から態々本郷敎會に來られたのであつたが、今回の擴張傳道に遂に決心して受洗するに至つた。同時に御主人も二十年來の希望を實現する事を得て、こうなつては自分も單に贊成者としてジッとして居られないので、手を携へて神の國の住民となられたのである。結婚後二十年にして、初めて眞の意味に於ける夫婦生活に入られし此家庭は、今や歡喜と和樂とに滿ちてをる。

之れ位興味ある改悔談も亦た少くなからう。予は聖手の業の妙にくすしきを思ふて、ア丶全知全能の神よ、あなたは眞に萬民の父に在すことを知るアーメン。と云はざるを得なかつた。終りに臨み神の恩寵この家庭の上に裕かならんことを祈る。

（十一月廿三日記す）

病床日記より

鹿子木つや

●●●八月六日　けふは海老名先生の朝鮮牧師方御招待の日である。私も御手傳に參る筈でしたが、昨夜よりフト熱出で、氣分あしかりし故、心ならずも欠席す。午後より熱一しほ高く、唯ならず思はれしも醫師不在にてやむなく、其まゝに過す。翌七日午後來診せられ、チブスの徴候ありとの見立、其時の私の心は何とも申せぬ程でした。家には暑さをさけんために來りし妹とその子供と老いたる母上なれば、もし傳染する事もあらば、夫れこそ一大事なりと、我身のことは忘れて、唯だこの事のみに胸をいため、只管神に祈りました。なやみの中にこの夜もあけて八日となる。此朝少しく熱さがりしも午後には再び熱いでゝ三十九度にのぼり、何とも云へぬ苦しさを感じ、この分ならばキツトチブスならむと思ひ、看護婦をやとひました。

●●九日　いよ／＼チブスと診斷せられしを以て、直ちに入院の手續きをなす。入院後は病苦はいやましたれど、傳染のおそれなければ、心やゝ安らかなり。されど身體は痛く衰弱甚し。思へばこの病は昨日今日の事ではない、そは七月中ば、枠台灣より歸り、大阪になる弟夫婦の世話にて同地にて結婚する事となりし故、一寸下阪し彼地にて病にかゝつたのであつた。その時容體は十分ならざりしがおして歸京し、とかくして八月に入つたのである。左ればかねて心臓のしわき我、いよ／＼チブスと診定された時は、この度こそは或は神のお召を蒙るやもしれずと思ひて、かねて心にかゝりし事ども密かに筆にして、家にのこしおきました。

●●●十二日　病勢はあしき方にすゝむ。見舞に來られし方にも堅く面會を謝絶せられました。十三日けふは誠に苦しくて朝と晝との區別もぼんやりとして分らぬ程でした。この夜熱高く心臓は頻りにさわぎて非常に苦しい。看護婦はてをつくし氷もて冷せども、苦しさはいとゞまさるばかり、ベツドの上に仰臥しながら、マンジリともせず、主の十字架を思ひて「なやめるときに、なぐさめあり、われらにかはりて、血をながせる主のみくるしみを、おもいみれば、いたみはおのれと、わすられけり」（三百廿五番）を心の中にて歌ひ、かぎりなき慰めと力を得ました。ア丶我若し主を信ぜず、その十字架のみ救をうけざりせば、この苦しみにはたへ得ざりしならむと思ふ。教會の姉妹達や、兄弟方が幾人も見舞はれし由なれど、面會を禁ぜられし病の悲しさには、逢ふよしもなく、只管皆様のあつき心情を神に感謝しつゝ「皆であなたの爲に祈つて居る」と云ひ殘し給へる御言葉に、力を得ました。何日であつたか忘れましたが、小山醫學士が面會謝絶の中に醫者としてヒヨコリお訪れになりましたのは、實に意外で感謝の中の感謝でありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●●●

九月一日　けふより粥を許さる、久しぶりにて朝一度食せしが、何故にや午後より熱发して四十度に上る。その上腹痛さへ加はりて醫師も驚くこと一方ならず。看護婦も心をこめて夜もすがら世話をして下さいました。看護婦と云ふものは眞に尊い事業であると思はざるを得ませんでした。

斯くて二日三日と日を經るにつれ、熱はさめましたが、折角めしに有つきし我は再びもとのおも湯に歸り、二日二夜の腹痛は、左らぬだに衰へし身を、ますく衰弱を感ぜしめました。

●●●

十一日　けふよりお粥を許さる、十七日醫師の許を得て、あるきの稽古をいたし二三歩あるきましたが、足の運びと云つたら、丸で子供の歩き初めのやうでした。十九日入浴を許されました。

●●●

二十日　午前診察がすんでいよく退院を許さる。其時のうれしさは何とも申せませぬ。この四十日間、病院にありし間に堪へられぬ苦しみのなかにも。種々なる經驗を得ました。

十六年前讃岐になりました頃の事です。私の身にさりて非常なる苦痛を受けし時、我が不信仰より、神の存在を疑ひ、神いまし給はば、此苦痛は與へ給はざるべきに、何故に斯く辛い事ばかりあるであらうと思いせまつては或朝早く起き出で聖書を手にして海岸に至り、熱心に聖書をよみても、何の力も權威も感じません。暫く默禱して更に聖書を開きますと、そこはヘブライ書、第十二章で、曰く我子よ爾主の懲治を輕んずる勿れ、其譴責を受くる時心を喪ふ勿れそは主其愛する者を懲しめ、又すべて其納る所の子を鞭てり云々であつた。此時私の心は大なる光明を與へられ、是迄の苦痛は神の愛の鞭である事が分り、靈眼くわつと開け、始めて神をあば父よと呼び奉ることが出來まして、神は私を愛し給ふが故に、この苦痛と困難とを與へ給ふのであると感じ、前にうかびし心は、雲霧のはれし如く、感謝して家に歸つた事がありました。

此度も深く神のみ惠の内にあるの思があるので誠に幸福であつた。羅馬書第八章の十五節に「阿爸父よと我等をして呼ばしむる神の子たるを得しめ給ふ」とある。これ父の我等に賜ふいかばかりの愛ぞ」とある。今足が不自由で、一々立つもすわるも人の助をからなければ、何一つ出來ぬゆゑ、一々老いたる母の手をかりるのですが、母は已を忘れて私のために致してくれます。自分と云ふことは全くありません。全く子のために盡してゐます。私母についても神の愛を思ひ感謝して居ります。母は私のたよりであり、又たのしみである。されど生涯のたよりとすることはできぬ故、生涯たよりとする母以上の神に仕へ奉る事こそ大切と存じます。記し終つて此四十日間病床にて得たる御惠みを感謝し、諸兄姉のあつき御同情を感謝しいたます。

道理以上

天眞な小兒の口からは時々奇妙な詩的の言葉や、宇宙の大眞理が無雜作にいひ出されることがあるのは、誠に面白ものであります。

或る外國宣教師の内に出産がありましたので、お祝ひに参りましたら、六つばかりの、生れた赤ちやんの兄さんが出て参りましたから、あなた赤ちやんどんなにお可愛いのと申しましたら、愛くるしいかほをして「道理以上」と申しましたので、思はず其子の頭を撫でゝふき出しました、

子供の歌園（スチーブンソン）

赤星生譯

●幼き夜語り

一 毎晩毎晩　母さんが
燈しを消した　其あとで
晝程はつきり　眼の前を
通る人達　私見る。

二 王樣始め　軍人が
いろんな物を　持つて行く
これ程立派な　行列は
晝でも決して　見なかつた

三 綠りの野邊の　舞臺でも
こんな偉いの　見なかつた
お馬も人も　勇ましく
列を造つて　進み行く。

四 始めは皆　しづ／＼と
やがては駈けて　速くなる
眠りの城に　着かんまで
此[illegible]當を　私見る。

●獨り言

一 友達三人　ぶらんこで
牧場に高く　浮かんだり
籠の中から　眺めたり
吹く春風に　牧草が
海と變らぬ　波を打つ。

二 ぶらんこ乘りは　冒險だ
天氣具合も　氣になるし
星を目當に　舵も取る
行手は何處　アフリカか

三 將たバビロンか　マラバルか。
シツ、海の上の　騎兵だぞ
唸りも怖い　野飼牛
早く逃げずば　逆ふまい
目指す岸邊は　花園で
さし行く港　くゞり戸よ。

●外國

一 櫻木高く　上れるは
小兵の我の　外に無い
兩手でしつかり　幹押さへ
外つ國々も　目の下ぞ。

二 ぢつき眞近に　見ゆるのは
花咲く隣りの　庭のみか
見た事も無い　場所場所の
其は美麗な　景ばかり

三 此方の空の　青鏡
ニコ／＼顏の　川長く
彼方町行く　人載せて
埃にまみれた　道越つ

四 もつと高い木　見つけたら
其こそ遠くを　眺めよう
大人に成つて　舟混ぜて
海へさはいる　川までも。

五 二手の道の　末終に
五時が子供の　御馳走で
おもちやが皆　生きて居る
夢の都へ　行くかしら

●風の夜な／＼

一 月星共に　隠されて
燈り一つも　見ねぬ夜
風のみ高く　吹き荒む
暗く混つた　其のなかを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不思議や何處の　人だらう
馬走らして　ドドドドー

二 庭には木々の　繁茂く
海には舟の　沙ろゝ時
空には低く　猶高く
馬走らして　ドドドドー
彼方へ行くか　ドドドドー
また戻つたか　ドドドドー

●夜具の國

一 私病氣で　寢てた時
お枕二つに　寄つかゝり
おもちやを皆　持ち出して
獨り樂しく　ほゝ笑んだ

二 色も身なりも　とり〲の
兵隊さんを　並ばせて
蒲團の上を　右左
調練さする　面白や

三 さては小さい　一聯隊
シーツの海を　分けて行く
彼方に木植ゑ　家建てゝ
其處は港か　面白や

四 枕が丘に　控ゑます
我こそ偉い　豪傑だ
見ゆる限りは　野よ谷よ
夜具の御國の　嬉しや

●私の影

一 いつも私に　附き纏ふ
小さい影の　おかしさや
頭の先から　踵まで
其れは私に　そつくりよ
寢床目がけて　飛び込めば
私よりさき　影が入る

二 おかしい事に　此影は
大きく成るのが　好きらしい
然かも子供の　常に似ず
急に大きく　丈け伸ぶさ
見る間に小さく　縮まつて
あるか無きかも　知れぬ程

三 ひとりで遊ぶは　いやと見ゑ
影はいつでも　私をば
からかふ積りか　離れない
臆病者さ　思へども
あはやぶとうと　する時に
私ぶつから　恥かしい

四 まだお日樣の　出ないうち
私早やくも　起き出で
露に輝く　花見れど
情けの寢坊の　「影」君は
お家に一人　殘り居て
御床の中で　グウグウグウ

●もぬけの殼

一 唐紙越しに　客間から
燈りが洩れて　人も入る
雨戸の隙から　空見れば
きらめく星は　幾百十
木々の葉數も　及ぶまい
都の人さて　適ふまい

●調練

一 持つておいでよ　羽箒を
帽子につけて　敏ちやんが
太鼓打つのは　孃さんよ

二 今日の大將は　まり子さん
しんがりするのは　信君で
時々笛を　吹けば宜い

三 足並揃へて　勇ましく
全軍進む　行手には
ハンケチの旗　打ち靡く

四 まり將軍の　お手柄の
分取品を　打ちかつぎ
村を巡つて　また家に。

家庭

子女教育に對する母の務（其十七）

海老名みや

中學時代の少年の友達に就て

下膨れの林檎の様な頬をした、愛くるしい男の兒が半ズボンの洋服姿凛々しく、背嚢を肩にして小學校に通つてる處は、眞に無邪氣で、可愛らしくて、通りがかりの知らない兒でも、一寸頭をかい撫でゝやり度程であります。處が、僅か二三年の歳月は、實にこの可愛らしい兒に驚く可き變化を與へまして丸々した頬は長くなり、身長は年に二寸三寸若くは四寸と大長足の進歩を致まして、やさしかつた音聲迄が男子の聲と變じまして、可愛げは段々失せて長いでふ／＼のズボンをはいた中學生となりますと親でも「何んだ生いきな」といつてやり度い程な姿に變るのであります。といつて親は子供がそんなに大きくなるのが決していやなわけではなく、自分より大きくなつたといつて腹を立てる親はどこにもありませぬ。大きい上にも大きくなれかしと希ふは眞に親心でありますが、此身體の發育と同時に我兒の精神狀態が、如何に變化しつゝあるか、又如何なる危機に臨みつゝあるかと云ふことを仔細に見てやることは親の大切な務であると思ひます。これは男女兒共でありますが、殊に男兒の此時代は、親の最注意深い監督の必要なることは今更申迄もなく、皆様とく御承知のことであります。其精神狀態に非常な變

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

動を與へまして、趣味や慾望も多くなり盛んになり從つて從來滿足して居た我家庭のみに滿足せずして先第一に友達を要求する樣になります。同氣相求め同類相よるは自然の方則でありまして、善良なるものは善良なる仲間に加り、不良少年は不良少年の群にいるといふ樣に自ら別れるものではありますが、此の年少時代はまだ誠に生で和らかで、周圍の境遇一つで四角なものにも丸いものにも、其形を變せらるゝものでありますから、內の兒はよい兒だからといつて少しも油斷は出來ませぬ。善良な家庭のお坊つちやんが何時不良少年の群に、は入てひどいものになつて仕まつたといふ樣な例はいくらでもあります。それもその兒の質によりまして周圍の感化を受くることの多い少いがあります、例へば其の兒が生得學者肌で、一途に專門的に學問にこつて行くといふ風でありますと、さほど友達の要求も致しませず又友達があつた處で安心でありますが、これに反して其兒が多方面で、多趣味で、鋭氣勃々といふ樣なたちでありますと、やれボートだベースボールだと運動仲間にも這入つて見たくなつたり、樣々の仲間に顏出して野次つても見たがつたり、從つて種々の友達とも往來するといふ樣になるのであります。發育盛りの少年が陰氣に考へこんで書物と頸つぴきでも困りますが、あまり活動的で大勢の友人を作らへて騷ぎ歩く樣なことは、決してよいことではありませぬ、殊に危險千萬なことであると考へます。それでその友達のことを研究致しますには、自然運動のことにも考へ及ぼして見なければならないことになります。運動にも種々ありますが先づこれを

團體運動と個人運動

の二つに分て見たらばよからうと思ひます。團體運動はベースボールやボートレースの如き、幾人かの團體と團體とで其技を競ふのであります。勝つも敗るもろともにといふのでありますから、從つて一種いひ難い親しみをもつことになるのであらうと思

はれます。それのみならず永らくの間練習を爲すに付ては幾回となく食を共にすることもあり、互に打とけ交る時機が多いのでありますから自然其親みが深くなり篤くなつてよかれあしかれ相互の感化は大なるものであることを思はねばなりませぬ。幸にして其仲間が善良な少年のみでありましたらたゞに其運動が筋骨の練磨を爲すのみならず、融和、共同、といふ樣な種々の美くしい性格をも併せ作り得ることは疑ひないことでありますが、不幸にして其の團體が運動家に得てあり勝ちな、放埒な、不勉強家の仲間であつたとしますれば、どうでしやう。我愛兒をかゝる仲間に投じて置くことが出來ませうか、これ程不安千萬なことはありますまい。といつてこれらの團體運動がどこの學校にもありまして一面非難の聲もありますけれども、盛んに行はれて居ることは事實でありまして學校でもよいと認むればこそ奬勵して居るのでありま

しやう。して見まするとこゝはそう無雜作には參りませぬ。若しも愛兒が其技能に勝れてゐて將來は天晴チャンピオンとしてたてる自信もあり、又友人等よりもさう見込まれて、勸誘せられます時は、血氣の少年、一腕ふるつて見度なるのは當然のことであります。又親としても筋骨逞しい偉丈夫と爲すは望ましいことでありますから、マアやらせて見やうかといふ樣な氣持にもなるものであります。が、こゝは親として其兒に對し最も

明晰な判斷と斷乎たる決心

を示す大切な場合であると思ひます。明晰なる判斷とは、其兒の性格に付てゞあります。從來學問の成績もよく、勉強の習慣もあり、意志も堅固でありまして如何なる周圍の境遇にも勝ち得ると見込ましたならば、其希望に任せて運動家とすることもよからうと思はれます。慥かに强健なる體格を作ると同時にある意味に於て精神の修練も爲し得るであらうと信じます。けれども、若し其兒が意志も强固ならず學問の成績もあまりよい方でありませぬならば、如何に本人が希望致しましても、友人が誘ひましても仲間に懇願されましても、其時こそは親の見識を以て威嚴を以てゆるすことは出來ないと斷乎たる決心を示さなければならないと思ひます。かゝる場合に於て親の半信半疑の態度は、其兒にも未練を殘させ其仲間の關係をたつわけにも行かず、終に其兒の性格を害ふ元となるであらうかと思ひます。マア安全を願ひまするなれば、團體運動の仲間には加はらない樣に最初にはつきりした決心を與へて置く樣にすることが大切であると思ひます。

個人運動はどうかと申ますと、これは團體運動の樣に起居を共にするとか、勝敗を共にするとかいふことはありませぬから、其の仲間の交際もよほど淡白にすむであらうと思ひます。聞く所によりますと或は擊劍とか柔道とか運動の種類に由て各々特長があり又其仲間にも各異つた氣風があるさうですから

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

よく先生や先輩と御相談して我兒に最も適したものを撰ぶ様にしたらよからうかと思ひます。兎も角も個人運動には友人に對する心配は少なからうと思はれます。

さらば、運動を離れては友人の心配はないかと申ますと決してさうではありませぬ。尚次號に今一回續て書くことに致しましやう。

家庭衞生大意

小山憲佐

第三　衣服の衞生　衣服は體温を保ち寒暑や濕潤を防ぐ爲めに着るものだから清潔にして常に乾かすのが大切である。婦人などは特に衣服を以て裝飾の一種と心得て居らるゝ方が多くある様だが、之は衣服の眞の目的ではない。清いと云ふ事を第一とし、美しいと申す事は第二に致さねばならぬ。衣服や帯を余りに緊く結ぶ時は、身體の運動又は血液の循環を妨げるから可成緩かにする方がよろしい。西洋人のコルセットと同じ様に、日本人の帯も余り固く結めると云ふと、肝臓を絞めたり胸廓の發達を妨げて肺病等に罹りやすくしたりする弊害がある。又衣服は余り厚着に馴れない様にすべきである。赤坊等にも隨分澤山着せて寒中汗疹を生ずる様な事を度々見受けるが、世のお母さんたる人々の注意を要する事と思ふ。衣服及び夜具の濕氣は感冒の源となる事があるから、度々日光に晒して乾かすのが肝要である。田舎などでは家中の最も暗き不便な室を寢室に當て、年中夜具を伸べ通しにして置くのみならず、夜分寢衣を用ひず、丸裸にて寢るので非常に不潔になつて居る、稀に病人などを見舞ふてかゝる室に入ると、不快の臭氣と黴臭との爲め頭痛を起す位ひである。寢衣は屢々洗濯し、夜具は屢々乾かす必要がある。襯衣袴下腹巻褌足袋等肌に觸るゝものは不潔になり易く、且つ濕り易いものだから、特に度々洗濯して乾かす必要がある。昔お寺の坊さんが、古褌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の濕氣によつて天氣豫報をして、大變能く當つたそうですか、終に鼠の小便でぬれたのを見て大雨の豫報をして大失敗をとつたと申す事だが、不潔な下着は能く濕氣を吸收するもので身體の健康を害するのである。小供等には腹巻を用ひて腹の冷へない様にし、着物は可成薄着の方がよい。肌着は絹よりも木綿の方がよろしい。フランネルが一番よろしい様です、毛織物もよろしいですが、小供にはよくない。序に毛織物の洗濯は湯を用ひ、皮革類の洗濯は日蔭にて乾かすがよい。血の付いたものは湯では落ちない、必ず水にて洗い落さねばならぬ。

第四　**身體の衛生**　身體の不潔は矢張り健康に有害である。常に入浴行水等を行ひ、清潔を保たねばならぬ、頭髪の餘り長きは不潔になり易きもの故、可成短ひ方がよろしい。婦人がたは頭髪は装飾の随一であるから、相當に保護すべきであるが、要するに清潔にするのが肝要ですから、屢々洗滌し、毎日櫛りて頭垢を去り、且つ毛髪の爲めには適度に油を用ゆるの必要がある。口中特に齒牙の不潔は唯に口内の病氣ばかりではなく、實に病の門となる事が多いから、注意して掃除せねばならぬ。毎朝及び食後に齒磨を使ふて能く含嗽し、若し齒石が出來た時は、早々齒科醫に見せて取つて貰はないと、齒を腐蝕する恐がある。口の臭氣を防ぐ爲めと稱して煙草を吸ふ人も隨分あるが、之は臭ひものに蓋をせよと云ふ主義で、決してとるべき道ではない。矢張り根本的に清潔にして、臭氣を隠くすのではなく、生じないやうにするのが衛生上必要である。食事の爲に湯茶を呑む習慣は必しも渇を醫するばかりが目的ではない、口中を漱ぐのが主なる目的である。爪を長く伸して置く時は、汚垢の堆積し易いばかりでなく、生爪を剝がす様な危險があるから、短く剪るべきものです。小指の爪を長く伸して得意になつて居る人を見る毎に私は失笑したくなる、垢の堪らぬ様に充分に掃除し得るにもせよ、何事も爲ずに遊んで居る人であると云ふ證據になる外、何の利益もない。或人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は耳垢を取る爲めだと申ますが、耳垢を爪で取のは危險な事で、これが時々耳に腫物の生ずる原因となるのである。耳垢を取るには少許の重曹を入れた微溫湯を以て耳中を潤ほし、濕れる紙よりを以て靜かに拭き取るがよい。餘り固くて取れない時は、金屬や牛骨の耳搔で掘る樣な事をせずに、專門の醫師に就て取つて貰ふのが安全である、耳搔で垢を取らふとして誤つて鼓膜を破り、生れもつかぬ不具者になつた例は少なくありません。序ですが耳や鼻の毛を剃るのは不自然であるし、又有害である。何れも衞生上必要のもので、鼻毛は吸入する空氣の塵埃を濾過する働きを持つて居る、卽ち呼吸は鼻から致すべきものである。耳の毛も同樣に外から昆虫やら塵埃の入らぬやうに防禦作用をするものだ。入浴は全身の淸潔法であつて、甚だ緊要且つ輕便にして愉快なるものである、一回十分か十五分より、長く湯中に止つてはいけない。食事したばかりとか非常に空腹の時とか、又は精神不快の時の入浴は反つて有害で

すから、手拭を溫湯に浸して皮膚を拭ひ入浴に代へる方が宜しい。又朝夕手拭を水に浸して全身を摩擦したり、又は冷水浴を行ふ時は皮膚の抵抗力を强くし氣候の變化にあふても、容易に感冒等に罹らなくなる利益がある、冷水摩擦又は冷水浴は時々やつたり、止めたりしては何の益にならぬのみならず、反つて風邪を引くおそれがあつて、有害ですから、必ず毎日規則正しく續けねばならぬ。其には夏か秋に未だ寒くならない中に始めるのが最も好都合である。運動の健康上有益なる事は申迄もない。併しながら餘り過劇なる運動を短時間に行ふはよろしくない。體格や、健康狀態によつて適宜に斟酌せねばならぬ遊步、體操、遊戲、水泳、諸種の遊戲的運動、武術的運動、唱歌、深呼吸、勞働等皆各人各個に取捨すべきもので、一定の法則を定むる事は出來ません。要するに興味を伴はざる運動は疲勞を來す事甚しく健康上の利益は少なきものです。(たはり)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事その折々

▲支那の革命

革命軍蜂起以來隣邦の混亂は實に非常なるものにて中清の全體は勿論、南清にも東三省にも、亦山西省にも革命軍に應ずるものあり。又蒙古にも滿朝の命を奉せず．獨立を宣言するに至れり。北京政府は時局に鑑み袁世凱を擧げて新內閣を組織し、一方革命軍の鎮撫をはかると共に一面國政を刷新し國民の要求にそはんとせるも、容易に其所望にそはざるが如し。然して革命軍は今や着々共和政府を組織せんとし、大立物たる孫逸仙も支那に向つて歸來するものゝ如し。然し何れより見るも前途は尙遼くして今より揣摩推測すべきにあらず。いまこゝに昨今の一二の事情を報ずれは左の如し。

△革軍の敗戰　勃發以來連戰連勝を以て官軍を捲き來りし革命軍は、漢陽の合戰に於て不覺の敗戰を見るに至り官軍は頓に氣勢を恢復せり。革軍漢陽敗北の原因は官軍より講和の申込みあり戰意なきを裝ひ油斷せしめしと、其虛に乘じて側面の森旬より突入せしによれりと云ふ。斯くて黃興は已むなく武昌に退却し漢陽は遂に全く官軍に歸せり。

△我國の出兵　北京外交團は現下の情況に鑑み列國の北京守備兵を增加するの必要を認め去廿三日會議を開きたる結果、各國適宜增兵するに決し．我國に於ても一部の兵力を增加する事となれり　即去三十四年の事變以後我が北京守備兵は僅かに五百名に過ぎざりしが、今回七百名を增加し千二百とする事とし第三師團に其命下り去廿八日名古屋發北京に向へり。最も此中百餘名は天津に留まるべしと云ふ。又我艦千代田、新高の二隻は南清に向へり、之にて南清及長江にある我軍艦は十九隻となる。

△遼陽の動亂　東三省は革命軍の影響を受け頗る不穩の兆候ありしが、終に遼陽に於て革命黨勃發するに至れり。固より中清に於けるが如く優勢の革命軍を見る事能はざるべしと雖も、此地の革命黨は馬賊と强固なる聯絡をとり居れば各地に蜂起すべく、殊に外人の生命財産は却つて中清よりも危險なりと。因に我が守備軍の鈴木中尉は演習の目的にて行軍中彼等の流彈にて遂に落命せりと傳ふ。

△革命黨の政府　革命軍は共和政府組織せるが大約左の如く內定し居れりと。

大統領　孫逸仙　　民政卿　湯化龍
內閣總理　黎元洪　　法部卿　宋教仁
陸軍卿　黃興　　度支卿　張羌仁
海軍卿　薩鎭冰　　農工卿　張謇
外務卿　伍廷芳　　郵電卿　溫宗堯

尙ほ學部殖民樞密院の各卿及次官は未だ決定せずと。

△南京陷落　革命黨の南京攻擊は漢陽敗戰の勢力挽回として大に努めたる所なりしが雨花臺の激戰後官軍意氣衰へ去二日林述慶は數千の兵を率いて大平門より他の一隊は儀鳳門より、何等の抵抗なくして入城全く南京を占領せり。官軍の大部分は前夜逃亡し其他は降伏し林は直に都督となり軍政を布けり。

△愈よ調停か　松井米國大使館參事官は重要なる任務を帶び去四日新橋發北京に急行せり。當局者は干涉調停の意ありしに拘らず兩軍の形勢混沌として調停の基礎案を得る能はず、餘儀なく今日に至れるもの、由にて、今や兩軍の形勢漸く定まりしかば茲に出でしと云ふ。然し時期は猶ほ幾分の延期を見るべく又日英間は協同の默契あり、露國も略ほ所見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を一にしたれば三國は同じ行動をとるべく米國も從來の干係上之に參加すべしと傳へらる

▲小學校長の優遇

現行の市町村立小學校長及び教員名稱並に待遇制によれば市町村立小學校長及び正教員の待遇は判任官と同一にして、如何に功勞あるものと雖も、進んで奏任官同等の優遇を得る能はざる規定なるが、小學校長及び教員に優良者を得て教育の功果を增大せんには、教員優遇の道を啓かざるべからずとの世論に鑑み文部當局者は盡力斡旋の結果、道府縣とも各三名を限り奏任待遇に進むを得ることゝし、三十日の官報を以て之を公布せり。

▲朝鮮の教育勅語

明治二十三年十月三十日教育に關する勅語御發布以來內地人民教育の大方針確立し、三大節を初め學校の式日に捧讀して一般臣民に服膺せしめられつゝあるが朝鮮に對する教育の方針は古來の關係上特殊の事情あるにより、旣に八月廿三日勅令第二百二十九號を以て朝鮮教育令の發布されしに付き、玆に朝鮮に對し教育勅語降下の必要を認められ、此程西園寺首相を經て優渥なる勅語を賜はりたれば、內閣にては其手續を爲し十月廿六日元田拓殖局總裁より朝鮮總督府に向け發送したる由。

▲春雨艦の沈沒

帝國驅逐艦春雨（三百七十五噸）は去二十三日横須賀港を發して和歌浦に向ふ途中界風雨に逢ひ、二十四日午前一時志摩國的矢港に避難せんとする際暗礁に乘揚げて沈沒したり。乘組員は六十余名にて內二十一名は海岸に泳ぎつき艦長大瀧中佐以下四十余名は行方不明となれり。生存者の語る所によれば、乘組員は最後まで勇敢に作業し、潮水艦內に滿ち萬事休するに至つて始めて艦橋に集まり陛下の萬歲を唱へたる後悠々激浪に沒したりといふ。

▲練習艦隊の出發

海軍少尉候補生練習艦阿蘇宗谷の二艦は司令官加藤少將引率の下に去二十五日午前十一時横須賀港出發、遠洋航海の途につけり。當日は齋藤海相、伊藤元帥、上村大將、伊集院出羽三須各長官來港夫々訓辭別辭あり。兩艦は各歡送者の萬歲と在港諸艦の祝砲におくられ勇ましく港外に出で去れり。尙我が有田畫伯は東京美術學校より南洋に於ける更紗染視察を兼ねて南洋風物研究のため宗谷便乘を許されたるが始終艦隊と行を共にして歸來せらるべしと。更めて興味あるお土產あるべし。

▲暹羅皇帝戴冠式

暹羅皇帝戴冠式は去一日同國首府盤谷のワットリフラ、ケオ寺院に於て擧行せられ我國よりも伏見若宮殿下御名代として御臨場あり數日に亘りて之に關聯せる盛典行るべしと云ふ。東洋に君臨して此の如く泰西式の盛典を擧げたるは同皇帝を以て嚆矢とす、暹羅は君專制なれども夙に英國の感化を受け、英人の顧問を聘き、皇帝親から英國に於て教育を受けさせられたり、同國は文化の度に於て我邦に劣らざるものあり、盤谷市街の如きは東京市に比して設備一層完備せりと稱せらる。吾人は本邦及び淸國以外東洋に於ける唯一の獨立帝國として同國の發展を望むと共に、今回の盛典に對して熱心に祝意を表するものなり。

隨感

夫婦の情味

つひ此頃のことですが、ある御夫人にいつ何日に御婦人方の爲、宗教研究會を開きますからおいで下さいと、電話で御案内致しましたら、それは必ず出席致度と存ますが、夫婦一所に伺ふわけには參りませぬかとのお尋ねでございました。又他の御夫婦の方のおはなしでありますが『私共結婚してもう、六七年にもなりますが、これといふ波瀾もなく、至て平和な生活をして參りましたが、何か一つ物足りない心地がします。夫婦共々宗教でも信じて、精神上一發展をしたならば、或はそれを滿すことが出來やしまひかと思ふが』とのお尋ねでありましたから私は無論大賛成の意を表しまして、必ず御希望を充すことが出來ませうから是非御研究になる樣にとお勸め致しました。この聲は一人ならず二人ならず、聞ゆるところでありまし、世間で高等の教育を受けた人人にして、結婚後五年十年若くば十五年と、平和な家庭や波瀾多き生活を、先づ仲よく送り來た立派な夫婦の口から叫ばるゝ聲であります。

これは實に眞面目な正直な、貴い告白ではありますまいか。近頃本鄕教會に新たに加はつた方々の中に數組の御夫婦があります、先夜此方々を宅にお招きして夫婦會を開きました。五夫婦の方々が集られましたが、樂しい、溫かい、會合でありました。五年、十年、廿年、卅年と長い〳〵生涯を送つた方々のことですから、かういふ面白いことがあつた、こんな衝突をしたこともあつた。今日共々信仰に入り同じ主義に立つことが出來て、一心同體、眞の夫婦の情味を初めて知ることが出來て嬉しいと喜ばれました。酒の香なき座敷に談笑湧くが如き、天眞爛熳の會合。とても此境にあるものでなければ想像だも

出來ないことであると思ひます。

十年廿年となりますと幾度となく繰返へされた新婚當時のおはなしも徴がはへて參りますし、日々の生活、子供のこと、四季折々の花紅葉も繰返し繰返しては、興ものらず、情も湧かず、ともすれば夫婦顏見合せてあじきなさを感ずることであらうと思ひます。然るに一度信仰生活にはいりますと、事々に新しき意味を見出し、忽然として新世界が現はれて參ります。そうして事々物々皆自己の發展の枝折ならざるはなく、今日の我は明日の我にあらずといふ樣に、互に進歩發達致し、妻は良人の人格の進み行くを見て益々敬慕の情を深ふし、良人も昨日に勝る妻の人格を見ては自から愛情も加はることでありませう。かくてこそ友白髮まで夫婦の情味は盡る時がなからうと思ひます。こゝに至りますと、惰力で續けてをつた興味のない日常生活も、まことに意味のある生活となり、あぢきなかつた來しかたにも無上の意義を見出して、再び若々しい興味ある生活

に入り、未だ曾て經驗したことのない新天新地を見出すことが出來やうと思ひます。(みや子)

最高の奉仕

をなじ神の御手に育くまれ、同じ一日を迎へながら、與へられたる一日を感謝のうちに送つて居る人と又苦悶の中に過して居る人とがあります。實に世の中ほど千差萬別な物はありません。子孫さかゑに榮えて平和な家庭があるかと思へば、一方には愛兒を失ふて悲嘆にかき暮れてをる家庭があり。此方には新婚の夢あたゝかき家庭があれば、彼方には片腕とたのむ妻に別れ頑是なき子女を抱ひて悲しむ人がある。されどこの樣々の境遇にある人々も皆な神の愛子であります。然るに世の人は未だ神の御恵を知らない爲に、非常な喜びに接しても、唯うわの空でよろこび、悲しみ逢へば其の中にある神樣の尊き御心を察しまつらないで、徒らに己が運命を嘆きうか

うかと暮してをるのであります。私は幾日ある御家庭を訪問いたしましたが、實に立派なおうちで、御主人は御地位も高し、皆樣御丈夫で物質上には何一つ不足なき、人の羨む樣な御家でありました。しかし表面から見た立派な家庭も同じ信仰、同じ趣味によりて其日を送る事が出來ない爲めに、始終人知れぬ悲しみの中に暮して居らつしやると申すことでありました。

私ども同信仰、同趣味の下に感謝と讃美を以て暮して居るものは、滿腔の感謝を神に捧げると同時に神の大恩に應へまつるしるしとして各自の力の及ぶかぎり、これらの哀れなる人々が神の御恩がわかり神の御前に感謝を捧ぐる事の出來る身分となる樣に出ては彼等に恩惠の實驗を語り、入りては祈りを以て働かねばなりませぬ。世の中の人々は物質の欲望に追はれて日もなほ足らぬと云ふ有樣でありますから、遂にはそれに打ちまけて、取返しのつかぬ過をなし、我身を滅ぼし父母を辱しめ、家名をけがすのであります。どうか私ども先きに選ばれたる信徒は常に信仰の道を歩み、內なる人を養ひ、岩の上に家庭を打ち立てることにいそしむと共に、この喜びと感謝ある信仰をにぎることの出來ない人々のために、力を盡したいと思ひます。世の中の進歩と、人の心の修養とが伴はぬより起る悲劇ほど、いたましいものはありません。日々起る悲むべき出來事は皆その因をこゝに發することを思ひまして、私どもは之等の人々の慰め人となり、其友となり、この人生最高の奉仕をはげみたいと思ひます。（りき子）

悲しむべき靈魂

いつぞや本郷の大通を行いて居ると四十恰好の見にくからぬ婦人がヒヨロ〳〵として、ある横町から出て來た、おかしな歩き樣と思つてをるとだん〳〵足並が亂れて、終には下駄もぬぎ捨てゝ仕舞つたが夫れでもいけなかつたと見えて、とう〳〵路傍に倒れてしまつたのを、通りかゝりの巡査が藥師堂の所

の空地に引づつて行つた事を記臆てをる。婦人の酔つたのは特更見ともないものである。日本の婦人は酒をかぶつて酔拂ふ人は少くない。こんなのは例外である。併し精神が酔つて居るものは實に多いと云つてもよからう。虚榮心〳〵と云ふのも實は精神的の酔者である。精神を酔はしむる酒は實に種類が多い。金もあらう、立派な住居もあらう、此節なら自働車もあらう、博士もあらう、爵位もあらう。これらは薄弱な精神をして一氣に酔はしむる。酔つたらなか〳〵さめはしない。某と云ふ妙齢の酔者があつて六十八歳の伯爵に嫁いだ。流石に世間では何のかのと此昏酔者に向つて攻撃の矢を放つたが、本人は一向平氣で、伯爵夫人となりすました。然るに聞けば此女は曩頃伯爵家を離別せられて、一年間の妾奉公と云ふ履歴を作つて今は築地あたりの知邊に身をよせて日陰者となつて居るとの事である。某學校の夫人や高等の教育をうけた婦人が萬引をした、他は自分の身分と云ふことを考へないでしょうかと云ふ。身分を忘れたのでない美衣に酔ふてをるのである。某博士が夫人を離別した。次に嫁いだ婦人があつた又それも離縁せられた、然るに更に嫁いだ婦人があるといふので、心ある婦人はマアと云ふ。マアーも何もない、其人物に嫁ぐのではなく、博士といふ學位に嫁ぐので、ツマリ博士に酔ふたのである。此人が離縁されたとする。御覧なさい更に學位に酔ふた第四の婦人が現はれるかもしれない。酔へる女、右を見ても左を見ても皆酔へる女ばかりである。然も彼女は自分のよふてをることを知らないで、ヒヨロヒヨロしてをる。足並はシドロモドロである。倒れて、地に塗れてをる。そうしてこれに満足して、さらに〳〵酔はんとしてをる。

ア、吾等少數の靈さめたる婦人は、啻に自分の靈魂のさめたることに満足せず、何とかして此の悲しむべき靈魂を喚び醒さねばならぬ。これが吾等の神様に對する責任である。吾等はこれがために祈り且つ働かねばならぬ。（きよ）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「わたし」と云ふ字

私共は不要意の間に甚だよろしからぬ言葉や文字を使つてをる事があります。たとへば「わたくし」と云ふ字を「妾」と書くことなども其の一例であります。むかし此文字を作つた人の意はどうであつたか知りませんが、今日は此文字はたしかに不潔な聯想をひきおこす文字でありますのに、心ある姉妹方の間にもこれを用ひて「わたくし」と云ふ字の代りになさる方のあるのは不思議でなりません。

口に藝者とか妾とかを攻撃しながら自分が此んな文字を使ふと云ふことは矛盾ではありませんか。曾て神田橋際に共立女學校と云ふ私立の女學校がありました頃、立の字と女の字の間が割合に近かゝつたので、何かの事から共妾學校だと惡口を云つた新聞がありました、世の中と云ふものはこんな者です。夫れに御自分から「妾」とかくに至つては寧ろ不見識と申さねばなりません。「私」と云ふ立派な文字もあり「わたくし」と云ふ優しい字もありますから、あんな文字は全く世界から葬りたいものです。序ながら申しますが、日本では謙遜とか何とか云つて愚父であるの愚母であるの、甚しきは我兒を豚兒であるのと、何でも馬鹿と云ふ形容詞をつける習慣がありますが、吾々はこれも止たいものです。西洋人などは人の前でも、我兒の事をディアー、ボーイと云つて何でも愛するとか親愛なるとか云ふ意味をつける。大變なちがひであります。日本人は之をつける事が出來なければ、せめて何もつけない事にでもしやうじやありませんか。（きよ）

謹告

時下寒威日に增し相加はり申候處各位益御清穆の段恭賀奉候偖て本年も愈よ餘日少なく相成候に付ては、帳簿整理の都合も有之、且種々都合も有之候間本誌代滯納の方は御多用中恐縮に不堪候得共折返し御送金被成下度猶又前金相切れ候方も此際何卒御拂込被成下度此段奉願候敬具

十二月五日　新人社會計

愛讀者各位

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

林町より

◉いよ〳〵本年も暮れんとしてゐます。皆樣の御同情の下に新女界も四つとなりましてすが〳〵しく可愛盛りになつた事を深く感謝いたします。

◉新聞を見ますれば毎月〳〵何等かの婦人雜誌が產れるのでありますが、まだ新女界のやうな特別な使命を以て生れ出づるものはありません。どうか私共は此特別な天職を發揮するために盡力したいと祈り且つ努めて居ります。四十五年は更らに一大奮發を以て皆樣の御愛心に酬ひたいと期してゐます。

◉安井主筆をはじめ社內一同すこやかにして新しきクリスマスを迎へ新年を迎へることを深く感謝いたします。殊にお目出度いのは元良姉が初孫をおもち遊ばして、おばあ樣となられた事であります。おばあ樣と云へば何んだかお可愛相な氣もいたしますがしかしお可愛いお孃ちやんにはかへられません。

◉クリスマス號は頁をまし內容を豐富にいたします筈ですから、皆樣も御實驗なり、お和歌なり、御隨感なり、お寄稿下さいまし、大いに歡迎いたします。

◉この月は印刷所にごた〳〵がありまして夫れでこんなにおくれました、深くおわびいたします。終に謹んで皆樣の御健康を祈ります。

本誌定價（一部金拾錢（郵稅共）◎六部半年分前金六十錢（郵稅共）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅共）

定價外國行（壹部金拾四錢　郵稅共）◎半年分前金八拾錢（郵稅共）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵稅共）

一行廿七三詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙拾貳圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと

●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

明治四十四年十二月三日印刷
明治四十四年十二月五日發行

東京市小石川區林町四十三番地
發行兼編輯人　海老名彈正

東京市小石川區丸山町四番地
印刷人　相原一郎介

東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　齋藤活版所

東京小石川區林町四十三番地
發行所　新人社
（振替貯金口座一四〇〇五）
（電話番町二五四四）

新人第拾貳卷第拾貳號目次（十二月一日發行）（金拾五錢）

◎社說

◎『基督から佛陀まで』を讀む　藤田快堂

◎支那の內亂と帝國民の覺醒

◎聖書講義

◎馬可傳　海老名彈正

◎教壇

◎疑能の實證　海老名彈正

◎時潮小觀

◎菊地博士の『初等教育改良』に就て

◎建部博士の教育行改意見

◎小學教員居殘の弊

◎想苑

◎實生活に働く信仰の力　內ヶ崎作三郎

◎小山氏の『佛陀より基督に』を讀む　中村之長助

◎一基督教徒の見たる起信論　津荷環山

◎加藤博士の『ジョルダン博士の排戰論に就て』を讀む　加藤直士

◎ユダと耶蘇　白夜生

◎雁山集　不喚樓主人

◎落葉　野口精子

◎秋のころ　田中清

◎文藝小觀

◎現代作家の研究

◎時評

◎信教の自由を妨ぐる勿れ

◎支那の精神的革命を想ふ

◎價値の道德を主張せよ

◎組合教會の京濱擴張傳道

◎ノラ劇と婦人解放問題

◎加藤氏の『小林富次郎傳』を讀む

◎雜俎

◎デビス博士を憶ふ　綱島佳吉

◎神は愛なり　山室軍平

▲教界彙報　▲新刊紹介　▲編輯たより

東京市小石川區林町四十三番地
貯金口座東京一四〇〇五

發行所　新人社

羽仁もと子主筆

婦人之友

▼迎年準備號

十二月發行　一冊十五錢　郵税一錢半　半年九十錢

物質的に、精神的に、心安く年末に處し、幸福なる新年を迎へんとする方々は、必ず『婦人之友』の十二月號をお讀み下さいませ。

まづ明年一年の豫算のたて方、改めて子供や雇人に與ふべき規律などを初めとして、年の內に決めて置くべき家事のいろ〱、年末贈物の心づもり、新春娯樂の用意、正月着の見立、重詰の拵へ方に至るまで、細かに、親切に、實際的に、書き記されてあります。

附錄には、迎年準備の日課表が添へて御座います。

◎妻の勝利　理想の生活　花子の卷　羽仁もと子

◎孔子の女性觀　文學博士　三宅雄二郎

◉年末のすすめ（七則）　羽仁もと子

◉私の時間割　山脇房子

◉年末賞與で建てた家

▲ショールの研究

▲お歳暮とお年玉

▲婦人股引の仕立方

▲新年料理のいろ〱

發行所　東京市小石川區雜司ヶ谷町　振替口座東京 壹壹六〇〇　婦人之友社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

電（本）八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋南

東洋內科醫院

院長　醫學士　高田畊安

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里

南湖院

電話ちがさき二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

但　院長渡歐中　副長代理す

毎月一日一回發行

明治四十四年五月二十日發行第參巻第貳拾號

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

B 3 9015 00257 668 7
University of Michigan – BUHR

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN